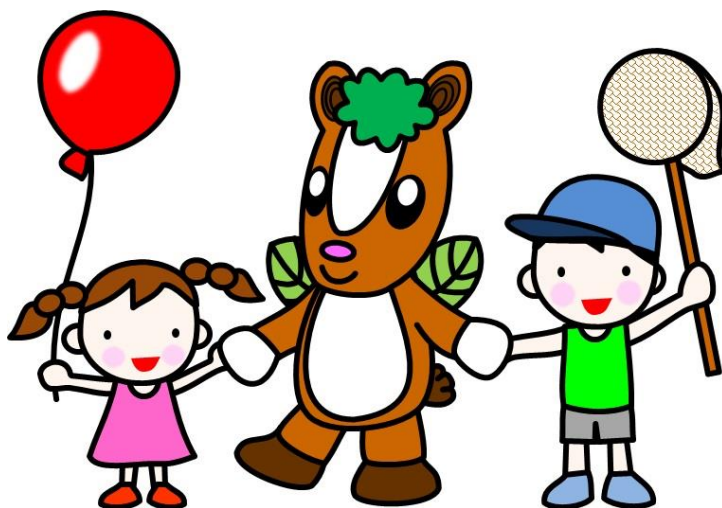




飯能市立保育所

令和2年2月

ベーシックガイド



飯能市 イメージキャラクター
夢馬

は

じ

め

に

飯能市立保育所では、恵まれた自然の中で一人ひとりの子どもたちがのびのびと活動できるように、地域の特性を生かした保育を行っています。

豊かな環境の中で、子どもたちが自分の力を十分発揮し、心身ともに健康で安定した生活が送れるように、子どもと関わる上での基本的なポイントをわかりやすく明記したのがこのベーシックガイドです。

様々な人とのふれあいや、信頼できる人との関わりの中で、たくましく、自立できる子どもを育てるために、健康で安全な保育所生活を保障するとともに、子どもたちの自主性を尊重し、人権に十分配慮しながらこのベーシックガイドを活用して、子どもたちの豊かな育ちを支えていきましょう。



飯能市立保育所保育課程



***** 保 育 理 念 *****

こころと身体で楽しむ子ども中心の保育を目指す



***** 保 育 目 標 *****

じょうぶな子

健康で安全な生活ができ仲良くあそべる子ども

思いやりのある子

自分も好き友だちも好きで心豊かな優しい子ども

意欲のある子

好奇心を持ち、自ら考えチャレンジする子ども



***** 保 育 方 針 *****

養護と教育が一体となって豊かな人間性をもつ子どもを育てる保育

自然とのふれあいの中でのびやかな感性や表現力を育む保育

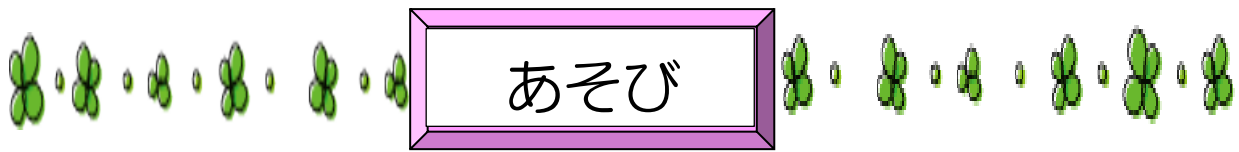
保護者（家庭）や地域に信頼される保育



目 次

構成あそび	2
ごっこあそび	10
園庭あそび	18
散歩	22
絵本	28
リトミック	36
睡眠	42
食事	48
子育て支援	54





あそび

子どもは遊ぶことによって、全身のさまざまな機能や能力を発達させていきます。

子どもにとって「遊び」は「学び」そのものです。

あそびは、子どもの運動機能を発達させるだけでなく、五感や情緒、知的能力の発達にも深くかかわっています。自制心や協調性などは、友だちとのあそびを通して身につけていくもので、それによって対人関係も発達します。子どもが成長していく上で、あそびを切り離すことはできません。

あそびは「見る」ことから始まります。まだ玩具に手を伸ばすことのできない赤ちゃんでも、目で玩具をとらえ、じっと見つめます。このような時期には、動くものを目で追うあそびをたくさん行いましょう。同じ玩具を使うあそびでも、年齢の違いによりあそび方は違ってきます。

あそびを援助するとき保育士は、子どもがいまどのような発達段階にあるのかを正確に把握し、いっそうの発達を促すために有効なあそびを選ぶことが大切になります。



構成あそび



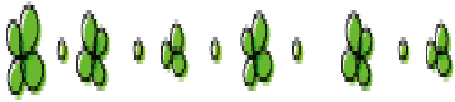
積み木や折り紙、ブロック、着せ替え人形など、子どもは大好きです。これは何かができあがっていく過程が面白いのです。自分のやったことに自分で驚いたり、楽しんだりしています。

発達とともに、大きいものや小さいもの、長いものや短いものの関係も分かっていきます。半分の長さのものを二つつなげれば、長いものと同じになるということも理解できるようになります。

こうして、平面が立体になり、奥行きということも理解し、お城を作れば、さらにお城の内部まで心を配るようになります。

幼児にとって大切なのは、作り上げた結果よりも作り上げる過程です。作り上げたものを長く保存しようという気持ちはあまり強くありません。構成する過程が面白いのと同じくらいに、崩していく過程にも大いに興味を持ちます。

保育士は、できばえの良し悪しよりも、子どもが熱中して取り組んでいるかどうかに関心を持って指導のポイントをおいています。



構成あそび



《全体のポイント》

- ① 個のあそびから友だちとかかわるあそびへ発展させる
- ② 友だちとイメージを共有して、イメージを膨らませる
- ③ できればのよし悪しではなく、どれだけ熱中して取り組めたかを見る
- ④ 一人ひとりの子どもの気づきや発見を認め、大いにほめ自信に繋げる
- ⑤ 毎日同じあそびを繰り返しているようでも、子ども達にとっては毎日が新鮮なあそびである
- ⑥ 様々なものを使って組み立てる過程は、子どもがいろいろ考え、手指などを使って作り上げる能力として発達する
- ⑦ 一人ひとりが考える
- ⑧ 並べるから積み上げる、複雑に積み上げたり、仲間と協力したりルールを決めて遊ぶ

《人的環境》

- ・いつも見守ることが必要である
- ・保育士が子どもと一緒に楽しく遊ぶ
- ・個々の子どもの発達・発育状況をよく把握してどんな経験が必要かを見極め一人ひとりに合った対応をする
- ・不安や緊張感を感じさせない

《物的環境》

- ・様々な材料や用具が容易に使えるように用意されている
- ・自由にあそびを発展させられる空間や場所などが確保されている
- ・じっくりとあそび込める時間が確保されている
- ・これまでの生活経験とかかわりのあるものを準備する

《あそびの種類》

- ・積み木、ブロック等一つの形を作り上げるあそび
- ・粘土あそび
- ・折り紙、切り紙、貼り絵
- ・思ったことや考えたことを絵にかく
- ・自然物（石・砂・土・木片・枝・葉・実など）を使ったあそび
- ・着せかえ人形

《大切にしたいこと》

あそびが発展するように教材、素材、教具を豊富に揃えておく

保育士も一緒に驚くとともに、評価する

大人の目で一般的な形になるような押しつけをしない

壊すことを禁止しない → 壊す楽しさを共感する

小さい子には保育士が作って見せる。興味をひかせる

一人ひとりが遊んだり、考えたりすることのできる空間や時間を保障する

組み立て、みんなと協力して大きいものを作る
友だちのすることを見て真似て遊ぶ
最初の予定がだんだん変わっていくことが多い

重ねる→高くなる。もっと高くするにはどうする？
つなげる→長くなる。短い積み木をつなげると長い積み木と同じ長さになる
崩す→どんな時に崩れるか？崩れない積み方の工夫、崩れ方の面白さ
壊す→意識的に壊す面白さ

できあがっていく過程がおもしろい
(造形の変化)

自分がやったことに驚く
(結果の変化)

作る過程でイメージする
(イメージ・あそびの発展)

壊す・崩すがおもしろい
(そのままできあがりを残しておくよりも形を変えることがおもしろい)

偶然できた形をどう見立てるか？
(イメージの膨らまし)

どんな場所でもできる

組み立てる、合わせる、重ねる、つなげる、分ける、崩す、壊すの繰り返し
(創造的表現と認識能力)



あそび
(0歳児)

＜ポイント＞

- 特定の保育士との情緒的な絆をつくる
- 一人ひとりに合わせた取り組みを大切にする
- 発達過程を理解する
- 心地よい時間と場所を確保する

子どもの姿

大人の動き・配慮

身の回りの物やおもちゃでひとりあそびを楽しむ

- 見守ったり、相手になったりして遊ぶ

両手に物を持って打ち付けたり、たたき合わせたりして遊ぶ

- 安全性を確保しながら、一緒に遊び、そのあそびを一緒に発展させる

手を伸ばして触り、口に持って行って感触を確かめたりして遊ぶ

- 衛生面、安全性を常に配慮していろいろな素材を準備しておく
- 手にしたものを飲み込まないように注意する



＜留意点＞

- 安全面のチェック
- 衛生面のチェック
- おもちゃの大きさは、4cm 四方以上のものが望ましい

＜人的環境＞

- 保育士が一人ひとりと丁寧に関わる
- いつも変わらない優しい言葉かけや援助を心掛ける

＜物的環境＞

- 様々な素材を準備する
- 場所を設定する
- それぞれが好きなおもちゃを把握して準備する
- 数を揃える

あそび
(1歳児)

＜ポイント＞

- 自分でできる気持ちを大切に、自信を持たせる
- 保育士に見守られながら、一人あそびを十分に楽しむ
- 手や指をうまく使えるようになったり、歩けるようになってあそびの幅が広がる

子どもの姿

大人の動き・配慮

興味関心を持ったものに、触れたり、扉を開けて中身を取り出したりする

- 自由に触れたり、すぐ取れるように色々なものを配置し、数も十分用意する
- 手に取ったものを飲み込まないように注意する

つまんだり、丸めたり、めくったり、はずしたり、なぐり描きをしたり手指を使って遊ぶ

- 様々なあそびができるように、素材を準備する
- 保育士が手本を見せて遊ぶ

友だちのしていることに興味を持って、真似をしてあそんだりする
(平行あそびの始まり)

- 真似はするが、関わり合うことはまだないため、無理に関わらせようとせず、自分のあそびを満足できるまで楽しめるようにする

大人のすることに興味を持ったり、真似をすることを楽しむ

- 保育士がやって見せて楽しく遊び、子どもの楽しさを大きく膨らませる



＜留意点＞

- 個人差が大きいので一人ひとりの発育・発達状況を良く把握する
- 探索活動の広がり、予測できない行動も多くなるので、環境や活動の状態、子ども相互のかかわりには十分注意する
- おもちゃの大きさは4cm四方以上のものが望ましい

＜人的環境＞

- 丁寧に一人ひとりと遊ぶ
- 一緒にやって見せてあそび方を教える
- 必要以上に「危ない・ダメ」と好奇心を阻害しない
- 共感することで興味を広げる

＜物的環境＞

- あそびやすい場を作る
- おもちゃは人数分用意する

あそび
(2歳児)

＜ポイント＞

- ・自我の育ちをきちんと受け止める
- ・想像力を遊びにも活かせるようになる
- ・自分を認め見守ってくれる大人の存在によって感情を鎮め、気持ちを立て直せる

子どもの姿

大人の動き・配慮

紙をちぎったり、破いたり貼ったりして遊ぶ

- ・十分な材料を用意する
- ・できたものを保育士が認めほめる

水・砂・土などの自然素材に触れて遊ぶ

- ・保育士と一緒に遊び、あそび方を教えたりする

なぐり描きをして遊ぶ

- ・保育士がそばで見守り、できたものを認めほめる

積み木を積んだり、並べたり崩したりして遊ぶ

- ・保育士がやってみせたり繰り返したり、一緒になって遊ぶ

ブロックをつなぐ、はすす、はめるなどして形を作って遊ぶ

- ・保育士と一緒に遊び、できたものを認めほめる

＜留意点＞

- ・子ども同士のけんかが多くなるので双方の気持ちを受容し、わかりやすく仲立ちをしていく
- ・衝動的な行動や動作が多くなるので、子どもから目を離さない

＜人的環境＞

- ・保育士があそびの手本を示す
- ・保育士が仲立ちをして遊ぶ
- ・好奇心を阻害しないように、聞かれたことにはしっかりと答える

＜物的環境＞

- ・あそびがじゃまされないような、スペースを確保する
- ・おもちゃ類の数量を十分確保する



構成あそび

(3歳児)

子どもの姿

粘土を十分手でこねて感触を味わいながら好きな形を作って遊ぶ

積み木やブロックあそびは、作ったり壊したりの繰り返しでさまざまに形を変えて作って遊ぶ

新聞紙をちぎったり破いたり丸めたりして楽しく遊ぶ

○△■などの色紙を組み合わせて様々な形を作ったり台紙に貼ったりして遊ぶ

好きな絵を描いて遊ぶ
(丸や四角を描く・はさみも使える)

木の葉や実を使っていろいろな形を作って遊ぶ

砂場で砂の感触を味わいながら砂あそびを楽しむ

〈配慮点〉

- できたものを大いにほめる
- 友だち同士のけんかが起きた時、双方の話を聞き、納得がいくように仲立ちをする
- 安全面、衛生面の配慮をする

〈人的環境〉

- 保育士がやってみせる
- あそびの提案をする
- あそびの中に入っていつでも見守っている



〈物的環境〉

- 場所を確保する
- 様々な材料、素材、遊具などを十分に揃えておく
- 時には見本を見せる

〈ポイント〉

- 一人ひとり思い思いに楽しむ
- 形がどんどん変わることを楽しむ
- 手先をたくさん動かせる活動を積極的に取り入れる
- 指先を動かすことは、知能の発達にもつながる

大人の動き・配慮

• できあがった作品をおいしそうに食べる姿などを見せて、子ども達におもしろいという喜びを味あわせる

- 十分な種類と数量を用意し、保育士がやって見せるなどしながらあそびを発展させていく
- 壊すことも楽しさの一つと認める

• 十分な量の新聞紙や広い場所を用意して、全身を使って破いたりして遊べるようにする

- 十分な種類と数の色紙を用意する
- 保育士がやって見せる

• いつでも好きなように描くことができる環境を整えておく(場所やとりだし方の工夫)

- 散歩の時などに集めてきて使う
- できあがった作品をみんなで飾り楽しむ

• 保育士と一緒に遊び、手本を見せながら、作り方を学ばせて友だちと一緒に楽しめるように仲立ちをする

構成あそび

(4歳児)

<ポイント>

- 作ったものからイメージが広がり、他のあそびに発展できる
- だんだん形作られていく造形の変化を楽しみ、うまくいかなければ壊してまた作り上げる

子どもの姿

砂場で友だちと役割分担しながら山や川（海・池）などを作って遊ぶ

友だちと一緒に積み木やブロックで様々な形を作り上げたり、壊したりしながら、変化を楽しんで遊ぶ

散歩などで気に入った自然物を持ち帰り、色々なものを作って遊ぶ

木片を使って組み合わせたり、釘を打ったりして遊ぶ

ダンボールを使ってお家ごっこやめいろあそびをする

思ったことや感じたことを絵に描いて遊ぶ
力の入れ加減で表現が違うことに気付く

牛乳パックや空き箱の形から車や電車に見立てて道路や線路を広げながら遊ぶ

大人の動き・配慮

• ジョウロやバケツ・スコップなど、道具を十分に用意する

• トラブルが起きたときはよく話を聴き、双方が納得できるように仲立ちをする

• 一人ひとりが自由に作業できるように環境を整える

• 道具の使い方を丁寧に伝え、危険のないように見守る
• イメージが膨らむよう様々な材料を用意する

• 大きささまざまな大きさや形のダンボールを用意する

• いつでも好きなように描ける環境を作っておく
• マーカーや色鉛筆など、様々な画材を用意し与える

• たくさんの材料を用意する
• 広げて遊べる場所を確保する

<留意点>

- 子ども達が自分からやりたいと言い出したことを尊重して、見守りながらうまくいくように援助する
- 友だち同士の対立は、よく話し合いをさせ納得できるように仲立ちをする

<人的環境>

- 近くで見守る
- 不必要な口出し、手出しはせず、子どもの発想を大事にする



<物的環境>

- 広くて十分に遊べる空間を用意する
- 十分な素材と材料を用意する
- たっぷり遊び込める時間を確保する

構成あそび

(5歳児)

<ポイント>

- 子ども達が協同しながらイメージの世界を構成していく
- 効率よく役割分担をして、より多様なあそびを展開していく

子どもの姿

折り紙をしたり、切り紙を作ったり、絵を描いたりして遊ぶ

ダンボールを使って、友だちと考えを出し合って工夫して遊ぶ
(迷路・お化け屋敷など)

木片を組み合わせたり、組み立てたり、釘で打ったりして作品を作る

牛乳パックを使い、道路や線路を広げ、町づくりを楽しむ

砂場で友だちと協同して様々なおもちゃを組み合わせて作り上げる

友だちと協同して、様々なおもちゃを組み合わせて作り上げる

自分達で人形を切り抜き、着せ替えあそびを楽しむ

大人の動き・配慮

• 自由に出し入れできる場所を作り、いつでも好きな時にあそびが始められるようにしておく

• 継続してあそびができるコーナーを作る
• 大小様々なダンボールを用意する

• 様々な大きさの木片を用意する
• 釘打ちや木片の合わせ方を教えるが一人でさせてみる
• でき上がりを認め、大いにほめる

• 大きな町を作れるようにあそびの継続や広がりに対応できる場所と時間をつくる

• 十分な道具の準備をする
• 年下の子ども達への安全を配慮する
• 砂場は自分達だけで使っているのではないことを気づかせる

• 感性と創造力、作り上げる意欲を育てるために、作ったり、壊したりする経験を十分にさせる

• 自由に出し入れできる場所を作り、いつでも好きな時にあそびが始められるようにする

<留意点>

- 年下の子ども達への配慮を話し合い、行動できるように促す
- 楽しく遊ぶためのルールを事前に確認し合う

<人的環境>

- 子どもの想像力や発想の力を信じて見守り、必要なら、そこが十分活かせるようなアドバイスをする

<物的環境>

- 十分な素材と材料を用意する
- 広くて十分に遊べる空間と遊び込める時間をつくる



ごっこあそび (室内あそび)



ごっこあそびとは・・子どもたちがイメージを共有し
テーマにそって役割を分担して楽しむあそび
ごっこあそびで育まれる力

- ① 愛情の体験の確認。身近な大人にしてもらったことを自分がやってみて、その体験を自分の中に取り込むことで自己肯定感や心の安定になる。
- ② ファンタジーの体験。例えば布1枚でおひめさまやヒーロー等になれば、現実生活ではできない体験から想像力を育み存分にあそぶ喜びとなる。
- ③ 言葉を使ったコミュニケーション能力が育つ。ごっこでの役割のあるやりとりは、言葉を使ったコミュニケーションの体験となり、イメージを共有しながら会話を楽しむコミュニケーション力を育む。
- ④ 生活に必要な知識や知恵を体得していく。ごっこをする中で次々にアイデアが生まれ変化し、生活の中で見聞きしたことが活かされ再現されることで、社会の仕組みや意味に気付く。
- ⑤ 自分の周りの人との存在を確認し社会性が育つ。例えば、お医者さんごっこでは医師・看護師・薬剤師が登場し、このあそび体験から仕事をする人や家族の役割を意識し自分も社会の一員である認識につながる。
- ⑥ 表現力、想像力が育つ。必要な道具を自分たちで作り出すことでイメージを表現でき、子どものこうしたい・こう作りたいという思いが形になる表現活動になる。



ごっこあそびがうまれる大切なポイント

まず、「もの（遊具・材料・道具）」と「環境」と「空間」を整えてみる。そして、「人（仲間・保育士・親等）」がいること。

どれか一つのポイントではなく、これらがからみ流れのある動きとなりごっこあそびが始まる。イメージが少ない低年齢児ほど「もの」「環境」「空間」があることが重要となる。



ごっこあそび（0歳児）
0歳児はごっこあそびの基となる「模倣からしぐさ
でやりとりするあそび」です

＜ポイント＞

- ・しぐさでやりとりする
- ・あそびのやりとりを大切にする

子どもの姿

大人の動き・配慮

「いないいないばあ」をすると「ばあ」を期待し喜ぶ

- ・「ばあ」のタイミングを工夫し、やりとりを楽しむ
- ・あやす→喜ぶ、のやりとりで大人との愛着関係を深める

「バイバイ」「どうぞ」のしぐさを
するようになる

- ・子どもにわかりやすいジェスチャーで「バイバイ」「どうぞ」のやりとりを繰り返す（子どもはやりとりから人のしていることを観察し再現することができる）

おもちゃを「どーじょ」と言葉を添えて渡そうとする

- ・「ありがとう」「いただきます」等の丁寧な応答・言葉添えをし、応答的な関わりからあそびの豊かさを増していく

「人形の口を拭く」「布団をかける」等世話をする

- ・動きを見守り、見立てる力を膨らませる言葉掛けをする（「きれいになったね」「ねんねねえ」等）

＜留意点＞

- ・おもちゃは舐めても安全な素材を選び、見やすい鮮やかな色彩にする
- ・おもちゃや遊ぶ環境の衛生管理に留意する
- ・おもちゃは子どもの満足度を重視し人の温もり感ある手作りが望ましい

＜人的環境＞

- ・1対1の関わりを大切にしていく
- ・一人ひとりの生活リズムを大切にし安心、安定した中で遊べるようにする
- ・一人ひとりに適したあそびを支援する

＜物的環境＞

- ・あそびの変化や成り立ちを観察し必要なおもちゃ（布・人形等）を用意する
- ・あそびが自然に展開できる室内を作り、あそびの様子から適宜おもちゃの入れ替えをする

ごっこあそび（1歳児）
ごっこあそびのカウントダウンである「見立てあそび期」です

＜ポイント＞

- ・模倣できるようになり、身近な生活を再現して遊ぶ

子どもの姿

カップにおもちゃを入れ、パクパク食べる真似をして遊ぶ

ブロックや積み木を携帯電話に見立てて遊ぶ

ぬいぐるみや人形に布団をかけて寝かせる

容器を使って物を入れたり出したりして遊ぶ

大人の動き・配慮

- ・「おいしいね」等、同じ動きをして共感する
- ・目線を合わせる等、寄り添う姿勢を大事にする

- ・「もしもし」等応答しながら共に楽しみ、やりとりを膨らませる
- ・見立てあそびからわかるコミュニケーションの楽しさを体験させる

- ・世話あそびのはじまりであり、見守ることが大切である
- ・求められた時等、状況により声かけをする

- ・入れ替えを満足して行えるよう見守る
- ・子どもがあそび込めるよう同じ物を複数用意する等の配慮をしておく

＜留意点＞

- ・友だちと何でも同じことをしたがるので、おもちゃを人数分用意し、噛む、叩くなどのトラブルにならないようにする
- ・おもちゃは子どもにわかりやすく置き、あそび込める環境にする

＜人的環境＞

- ・友だちと同じあそび（テーマ）が共有できるように成り立ちを見守る
- ・あそびの成り立ちから見て必要なら介助する（丁寧に支援する）

＜物的環境＞

- ・子どもが好きなあそびを選び、落ち着いて遊べるように設定する
- ・使いやすい大きさのおもちゃを用意する



ごっこあそび（2歳児）
 ○○のつもりといった「つもりになる」
 あそびが出てくる時期

＜ポイント＞

- ・お世話あそび、料理などの簡単なごっこあそびが始まる

子どもの姿

大人の動き・配慮

人形にご飯を食べさせたり、おんぶをしたり、布団に寝かせたりする

- ・「自分以外の他者」を意識し始めるこの時期ならではの「お世話あそび」を見守る
- ・要求を満たし、十分楽しませる

保育士を子ども役にして、食事を作ったり寝かしつけようとする

- ・お世話あそびの広がりと一緒に楽しむ
- ・応答的なかわりを丁寧に育み、豊かな人間関係の生活を支援する

テーブルに食べ物を入れたコップやお皿を並べ、「いただきます」と言いながらやりとりを楽しむ

- ・あそびを膨らませるアイテム（スカート・エプロン等）を渡し、一緒に楽しむ
- ・モデルになって共にあそぶことで、よりイメージしやすくなるよう支援する

友だちとお気に入りの人形を並べ、同じようにお世話あそびをする

- ・友だちとのやりとりを楽しめるよう常に考え対応する
- ・まねっこを大いに楽しむこの時期の模倣力を大切にする

イメージが膨らみ、自分の家に見立てて、簡単なごっこあそびが始まる

- ・個々が満足して遊べるようにし、他児へのイメージの共有を心掛ける
- ・コーナーを設置し、子どもが「つもりの世界」に入っていけるようにする

＜留意点＞
 ・「つもりになる」「○○の真似」等のあそびがたくさん楽しめるように、空間の工夫やあそびが共有できる環境を設定する

＜人的環境＞
 ・友だちとぶつかり合いが生じた時、保育士が気持ちを代弁し仲立ちをする
 ・保育士があそびのモデルになり興味や関心を膨らませる

＜物的環境＞
 ・使ったおもちゃを片づけられるようおもちゃの場所をわかりやすく表示し、コーナーの高さは子どもに合った低いものにする

ごっこあそび（3歳児）
 ※3～5歳児は、ごっこあそびが展開して
 いくようすをガイドします

＜ポイント＞

- ・自分から自分たちへと意識が芽生えあそびの満足感を大切にする

子どもの姿

大人の動き・配慮

（お医者さんごっこ）
 全員が医者になり、人形やぬいぐるみに注射等の処置をする

（お店屋さんごっこ）
 おもちゃを料理に見立ててお皿等にのせて、友だちや保育士に渡したり運んだりして遊ぶ

（おうちごっこ）
 お母さんのつもり、赤ちゃんのつもりになり、その人になりきることを喜ぶ

（発表会ごっこ）
 自分の役を繰り返し演じ、同じ展開を楽しむ

- ・子ども同士の関わりを大切にする（友だちと一緒にの楽しさを実感できることが大事）
- ・必要に応じて保育士があそびのモデルになる
- ・おもちゃや道具の数は、余裕を持って準備する（順番に使うのが難しい）
- ・自由にごっこあそびが展開できるよう、おもちゃや道具はすぐに使えるところに置く

＜留意点＞

- ・保育士が主導権をとるのではなく、子どもが創造的欲求を表現できるようにする
- ・イメージが膨らみやすいシンプルな素材を使う。形のきまっただものよりシンプルな素材の方がよい

＜人的環境＞

- ・身の周りの大人の行動を再現するので、丁寧に関わっていく
- ・身近な経験を再現するので、生活体験を大切にする

＜物的環境＞

- ・コーナーを必要に応じて設置する
- ・あそびに必要なおもちゃや道具を揃える
- ・目の行き届くコーナーを作る

ごっこあそび（4歳児）
 ※3～5歳児は、ごっこあそびが展開していく
 ようすをガイドします

＜ポイント＞

- ・創造力、言語力、意欲等が高まる
 「ごっこあそび黄金期」である

子どもの姿

大人の動き・配慮

（お医者さんごっこ）
 医者、看護師、患者等の役を登場
 させ、友だち同士楽しむ

（お店屋さんごっこ）
 料理を作る真似をし、おつりを渡
 したり、自分なりのお店屋さんの
 つもりを楽しむ

（おうちごっこ）
 お母さんらしく、赤ちゃんらしく
 等アイデアを出し合いながら、イ
 メージ通りのあそびを友だちと
 楽しむ

（発表会ごっこ）
 他の子どもが演じた役をやりたが
 り、順番に役を代えながら遊ぶ展
 開を楽しむ

- ・友だちと一緒にイメージを共有
 できるあそび体験を大切にする
- ・ルールを伝え、見守る
- ・必要に応じて言葉かけをする
- ・ルールや役割が理解できない子
 どものフォローをする（仲立ち
 やその子どものペースであそび
 に入れるタイミングをとる）
- ・あそびの広がり的大事に捉える

＜留意点＞

- ・友だちと一緒にイメージを共
 有し遊べる体験を大事にし、
 必要な言葉かけをする
- ・保育士は子どもが「何を見立
 て、誰のつもりになっている」
 のか思いをめぐらせ、子ども
 の気持ちに丁寧に寄り添い必
 要な援助をしていく

＜人的環境＞

- ・あそびのルールや役割
 を理解し、イメージで
 できるように工夫して
 伝えていく
- ・子どもが「何をイメー
 ジしているのか」を考
 え、必要なものを準備
 する

＜物的環境＞

- ・子どものイメ
 ージを表現
 できる素材、
 道具、空間を
 作る（コーナ
 ー作成とそ
 の利用）

ごっこあそび（5歳児）
 3～5歳児は、ごっこあそびが展開していくよ
 うすをガイドします

＜ポイント＞

- ・あそびにストーリーや道具の工夫も生まれテーマの共有、展開、持続がある

子どもの姿

大人の動き・配慮

（お医者さんごっこ）
 診察券をつくり、薬局が登場する
 など、道具を本物らしくしながら
 みんなで遊ぶ

（お店屋さんごっこ）
 お客さん役や、店舗が増え、役割
 やストーリーを作りながら友だ
 ちと関わる

（おうちごっこ）
 うちの人役がリアリティーを求め、
 お母さんの持ち物や赤ちゃんグッズ
 等自分達で工夫し道具作りをする

（発表会ごっこ）
 演じたことを膨らませたり、スト
 ーリー外の内容を入れたり、自分
 達で発表会を創る展開を楽しむ

- ・友だちとイメージを共有し、同じ目的で遊ぶ体験を大切に
- ・子ども同士のやりとりを尊重する
- ・子どものあそびが創意工夫へと発展していけるよう配慮する
- ・子どもがあそびに必要な道具を作りたいと思った時、すぐに作れる環境を設定しておく

＜留意点＞

- ・ごっこあそびのリアルさを要求するので、できるだけ本物を用意し本物に近い状態を作る（大人と同様のものを使える喜びは自己肯定感に繋がり、身近な大人の真似は大人との愛着関係が形成される）

＜人的環境＞

- ・あそびの展開から何を必要としているか見極め考慮する
- ・子どもの思いを、先回りすることなく尊重する

＜物的環境＞

- ・製作コーナーを作り様々な材料を用意する。
- ・子どもが作り出す環境を大切に考え、設定する（子どもの手の届くところ）

ごっこあそび
(おもちゃ参考)



〈0歳児〉

- にぎにぎ
- 小さな布
- 丸スズ
- お手玉
- タオル人形
(小さいもの)
- 重ねコップ
(入れ物に使える)

〈1歳児〉

- 初歩的なお世話あそび
のための人形
- ぬいぐるみ (抱っこで
き柔らかく使いやすい
大きさのもの)
- 布団
- 布 • お手玉
- 重ねコップ
- プラステン

〈2歳児〉

- ままごとセット
- 乳児用流し台
- 食器
- 調理器具
- お手玉
- 大ビーズ
- 役ごっこセット
- エプロン
- スカート
- バッグ
- お世話あそびセット
- ぬいぐるみ
- 人形
- 布団



〈役ごっこセット〉

- レジスター
- ドレッサー
- バッグ
- ぬいぐるみ
- 人形
- 人形用ベッド

〈お世話あそびセット〉

- 人形 (抱ける大きさ)
- おんぶひも
- 大小の布
(大→エプロン・ドレス・マント
になり変身できる)
- (小→包むものや人形にまき服
となる)

〈ままごとセット〉

- 幼児用流し台
- 食器
- 調理器具
- 冷蔵庫
- 電子レンジ
- お手玉
- チェーンリング
(食べ物の形をしたものより、
イメージが膨らみ、
あそびの幅を広げる)



園庭あそび

園庭は、子どもにとって安心安全で、思いきり全身を動かして遊ぶことのできる空間です。また、自然の不思議さやおもしろさに満ちており、子どもに多くの興味や関心を抱かせます。

進んで体を動かし、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむことで、身体の諸機能の発達が促されます。

主体的な活動を十分楽しむことで、満足感や達成感が得られ、自発性や探索意欲を高め、豊かな感性とともに好奇心、探求心や思考力が養われます。そのためには、子どもたちの関心や欲求・意欲を十分満たす環境づくりが必要です。

乳児にとっても、外気に触れることは大切であり五感を通して様々な感覚や知覚を得ていきます。一人ひとりの子どもの健康状態を把握した上で、紫外線の対策に配慮しながら、戸外で遊ぶことの心地よさを十分味わうことができるようにしましょう。

信頼できる保育士の見守りがあってこそ十分に遊び、友達との関わりを深めていきます。



園庭あそび
(0・1・2歳児)

<ポイント>0歳児

- ・自然(風・光・雲・空・草木等)の心地よさや開放感を共有し、共感しながら信頼関係を築く。
- ・複数担当でも基本的な対応は、1対1とする。

<ポイント>1・2歳児

- ・自分から、自由に体を動かせるよう配慮する。
- ・探索活動を通して経験を広げる。
- ・季節感を味わいながら感性を豊かにする。
- ・保育士と一緒に楽しみ、遊べる支援を行う。

子どもの姿

砂に触れ感触を楽しむ
水や泥に触れ心地よさを味わう

固定遊具で遊ぶ
泥山を上り下りする

コンビカー(乳幼児乗用車)や三輪車を押したり乗ったりして遊ぶ

小石や小枝等を集める
日差しや風の心地よさを感じる

敷物の上で大人と一緒に過ごす
ベビーカーや避難車に乗って過ごす

大人の動き・配慮

- ・一人ひとりの興味、関心に共感しながら見守り対応する
- ・側で見守り、口に入れたりしないよう安全面衛生面に配慮する

- ・一人ひとりの発達を見極め、手足の使い方・力の入れ方等を伝える
- ・他児との関わり方を伝える

- ・一人ひとりの子どもとあそびを共有しながら、道具の使い方を見せる

- ・安全面衛生面に気を付けながら、満足できるようにそばで見守る
- ・一緒に見て感じたものに共感し言葉にしていく

- ・手を振る、膝にのせる、目を合わせる、話しかける等の動作を行う
- ・一人ひとりの興味や関心に、表情や言葉で応える

<留意点>

- ・変わりなくいつも優しい言葉かけと穏やかな対応をする(0歳児)
- ・大きな声等子どもを不安にする行為を慎む(0歳児)
- ・一人ひとりの発達状況や体調を把握して対応する(1、2歳児)

<人的環境>

- ・担当保育士がかかわる(0歳児)
- ・一人ひとりとかかわれる時間や場面を作り、信頼関係を深める(1、2歳児)
- ・一人ひとりの子どもの自主性を大事にし、動きやあそびに応じる
- ・あそびが見つけれられるよう支援する
- ・かかわり言葉で個々のあそびをつなげる

<物的環境>

- ・周囲の安全をチェックする(0歳児)
- ・風や光等の刺激の強さを考慮する(0歳児)
- ・探索活動が安全に十分行えるよう園庭を整える(1、2歳児)
- ・友だちと共感できるよう、おもちゃや道具の数をそろえる(1、2歳児)

園庭あそび
(3歳児)

<ポイント>

- ・個々から友だちや集団への移行期なので、順番や交代の方法、貸し借りのかかわり言葉を丁寧に示し伝える。
- ・遊具の使い方、体の動かし方等、一つひとつを実際に関わりながら伝える。

子どもの姿

手足だけでなく全身で水や砂・泥に触れて遊ぶ

固定遊具で遊ぶ
(ブランコ・鉄棒・滑り台
ジャングルジム・上り棒)

キックボードや三輪車に乗って遊ぶ
ボールで遊ぶ
長縄跳びで遊ぶ

季節を感じ自然に触れて遊ぶ
(草・花・実・種子・石・氷・霜柱・雪・虫等)

保育士や友だちと簡単なルールのあるあそびを楽しむ
(かくれんぼ・鬼ごっこ・かごめかごめ等)

大人の動き・配慮

- ・大人と一緒に遊び楽しさを共有しながら、型抜きや団子作り、穴掘り等の見本を示す
- ・冷たい、べたべた、ヌルヌル等の感触を全身で味わって遊び込めるようにする

- ・子どもの意欲を大切にしながらも、遊具の安全な使い方や、順番を待つ等を教え、危険のないよう見守る

- ・乗り方や交代で使うことを伝える
- ・蹴る、投げる、追いかける等が楽しめるよう配慮する
- ・子どもの発達に合わせて縄を動かす
- ・上達を認め、褒めて自信に繋げる

- ・あらかじめ摘んでよい草花を知らせる
- ・摘む、拾う、つまむ、集める、運ぶ等、個々のあそびが深まるようにする
- ・興味や関心を大切にしながらも、生き物であることを伝える

- ・隠れる、鬼になって見つける等のルールや遊びの中での役割を伝える

<留意点>

- ・安全に遊ぶルールや決まりを、分かりやすく伝える
- ・保育士も一緒に遊びながら楽しさを伝える
- ・遊具等、常に子どもが使い易い状態を保つ

<人的環境>

- ・保育士も一緒に遊び、楽しさを共有することで信頼関係を深めていく
- ・頑張ったことや出来たことの一つひとつを認めて褒め、子どもの自己肯定感を育てる

<物的環境>

- ・定期的に砂場の衛生管理や掘り起こしを行う
- ・固定遊具の安全確認は、点検表により毎月行う

園庭あそび
(4・5歳)

<ポイント>

- 広い空間で思う存分体を動かせるための安全対策を行う
- 自主的、自発的体験がいつでも行えるよう環境を整える
- 発達を促す遊びの提供と保育士自身が表情豊かに参加する等の関わりを持つ

子どもの姿

砂場で友だちと山やダムを作って遊ぶ
全身を使って水あそびや泥んこあそびをする

安全に気を付けルールを守って固定遊具で遊ぶ
自分なりの目標を持って繰り返し挑戦する

キックボードや三輪車等に乗って遊ぶ

季節を感じ自然に触れて遊ぶ
(草・花・実・種子・石・氷・霜柱・雪等)
虫を探し図鑑で調べたり飼育したりする

友だちとの集団遊びを楽しむ
(かくれんぼ・鬼ごっこ・ドンジャけん・ドッジボール・サッカー・野球等)

大人の動き・配慮

- 砂山にトンネルを掘ったり水を使ってダムを作ったり等、遊びの展開を促す
- 友だちと力を合わせる経験ができるように配慮する
- 手、足、全身で水や泥の感触を味わう楽しさを伝える
- 昨日より今日、今日より明日と継続的なあそびの深まりと達成感を大切にする

- 手足の使い方や力の入れ方、安全に気を付けルールを守って固定遊具で遊ぶことを個々に伝える
- 関わる過程で沢山褒め、自信に繋げる

- スピード感やスリル等を味わい十分に遊び込める空間を作る
- 子ども同士のイメージを大切にする
- 順番や交代等も教える

- 子どもと一緒に楽しむ
- 発見や工夫ができるような環境を整える
- 子どもの興味や関心を大切にする
- 生き物であることを伝え大切に扱えるよう見守る

- 子ども達から自発的に始まる集団あそびは、静かに見守る
- ルールのあるあそびは事前に分かり易く教え一緒に行く
- 決まりやルールを守ることで、楽しく遊べることを伝える

<留意点>

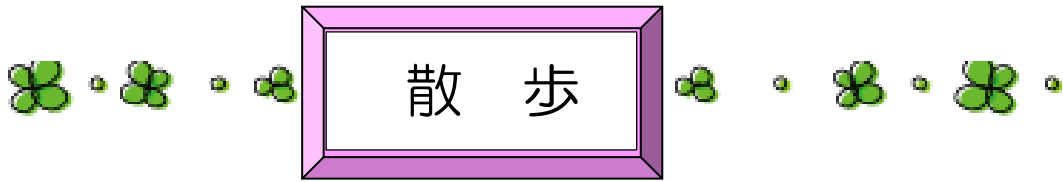
- 楽しく遊ぶための大人の役割と子どもの役割を整理し、ルールや決まりを伝える
- 子ども自身が行うべき、友だちへの配慮やかかわりを分かり易く伝える

<人的環境>

- 子どもの活動を認めて褒める等を繰り返し自己肯定感を育てる
- 子ども自身があそびを考え深められる環境を整える
- 子どもたちの活動の状況に応じ、関わりや見守り等の対応を考える
- あそびに入れない子どもへは積極的に働きかける

<物的環境>

- すべての子どもが十分に遊びこめる空間を作る
- 季節や天候等を考慮した設定と準備を行う
- 定期的に砂場の衛生管理や掘り起こしを行う
- 固定遊具の安全確認は、点検表により毎月行う



散歩

散歩は四季折々の自然に触れ、五感と好奇心を刺激し、豊かな情緒を育みます。季節ごとに咲くきれいな花、心地よい風、木々の紅葉など飯能の豊かな自然を肌で感じ様々な発見をしながら、ゆったりと楽しみましょう。

幼児期によく歩くことは、運動に関わる神経細胞の発達を促すばかりではなく、話す、読む、理解するなどの能力に関わる脳神経細胞も刺激されて、子どもの脳の発達を促す効果があります。

計画の中で季節感や発達段階に応じてどのように散歩を取り入れていくのか十分検討します。園外保育安全マニュアルを基にチェックを行い、活動中や帰園時なども、必ず人数確認や観察を行います。

散歩中に出会った人と挨拶を交わし、保育所や子どもの理解を深めます。地域の人との交流から協力を得たり、相互に情報を交換し子育て支援につなげます。

不審者や危険を察知した時は、子どもの安全を最優先した行動をとります。同時に110番通報をし、園にも知らせます。

散歩（0歳児）

＜ポイント＞

- ・気持ちよく、安心して過ごせるよう配慮する
- ・身近な自然や生き物に親しむ
- ・個々の発達に合わせて散歩を楽しむ
- ・だっこやおんぶも取り入れながら安心して散歩を楽しむ

（主な持ち物）

- ・ホイッスル・帽子・ベスト・携帯電話・防犯ブザー
- ・救急用品・タオル・緊急連絡カード・小銭・衣類一式（オムツ・パンツ・ズボンなど）・ティッシュ・ビニール袋・おんぶひも・バギー・避難車

子どもの姿

外気に触れ、季節ごとの自然を感じ、心地よさを味わう

立ち止まったりしゃがんだりしながら、色々なものに興味を示す

身近な生き物に興味を持ち、声を出したり、指さしをする

大人の動き・配慮

- ・積極的に外気にふれる機会を作る
- ・季節や天気などに合わせ、衣服の調節をする

- ・個々の発達段階に応じた活動ができるよう、十分に触れ合いながらゆったりと過ごせるようにする
- ・子どものペースや興味に合わせて関わる

- ・子どもの視線に合わせて、共感しながら言葉掛けをしていく
- ・なんでも口に入れ、確かめようとするので誤飲に気をつける

＜留意点＞

- ・散歩の前後には水分補給を行い、オムツの汚れを確認する
- ・その日の体調などにより参加できるかどうかを判断する
- ・虫さされ対策をする
- ・害虫に十分注意する

＜人的環境＞

- ・飯能の豊かな自然を満喫できるよう工夫する
- ・子どもたちの身の回りや足元に注意し、安全に気を配る
- ・満足いくまで探索活動を行える環境をつくる

＜物的環境＞

- ・ゆったりした雰囲気の中で外気に触れられるようバギーやおんぶひもも利用する
- ・帽子をかぶる

散歩（1歳児）

<ポイント>

- ・一人ひとりの発達を考慮する
- ・道草を大切にする
- ・自分の足で歩くことを楽しむ
- ・歩行に適した靴を履く
- ・動きやすい服装にする
- ・様々な自然物に触れる

（主な持ち物）

- ・ホイッスル・帽子・ベスト・携帯電話・防犯ブザー
- ・救急用品・タオル・緊急連絡カード・小銭・衣類一式（オムツ・パンツ・ズボンなど）・ティッシュ・ビニール袋・おんぶひも・バギー・避難車

子どもの姿

片言や表情・指さし・動作などでやりとりをしようとする

立ち止まったり、しゃがんだりしながら興味のあるものに触ってみようとする

保育士の周りを行ったり来たりして楽しむ

歩き疲れたり、思い通りにいかなくてぐずる

大人の動き・配慮

・子どもの興味や驚きを見逃さず受けとめ、ゆったりと関わる

・危険のないよう見守りながら、探索活動を楽しめるようにする

・一人ひとりが満足して遊べるようにする

・子どもができないことはさりげなく手を貸し、できそうなところは手を出さずに見守る

<留意点>

- ・散歩の前後には水分補給を行い、トイレに誘ったりオムツの汚れを確認する
- ・その日の体調等により散歩に参加できるかどうか判断する
- ・子どもから目を離さない
- ・虫さされ対策をする
- ・害虫に十分注意する

<人的環境>

- ・飯能の豊かな自然を満喫できるように工夫する。
- ・子ども達の身の回りや足元に注意し、転倒・転落を未然に防ぐ

<物的環境>

- ・避難車も移動の手段として利用できる
- ・帽子をかぶる

散歩 (2歳児)

<ポイント>

- ・歩く距離がのびる
- ・個々の発達や体力に合わせる
- ・歩行に適した靴を履く
- ・動きやすい服装にする
- ・様々な自然物にふれる

(主な持ち物)

- ・ホイッスル・帽子・ベスト
- ・携帯電話・防犯ブザー
- ・救急用品・タオル・緊急連絡カード
- ・小銭・衣類一式(オムツ・パンツ・ズボンなど)
- ・ティッシュ・ビニール袋

子どもの姿

子ども同士で手をつなぎ、並んで歩き、興味のあることを言葉にしてやりとりを楽しむ

季節を感じながら、身近な自然物を取り入れて遊ぶ

自然の中を歩いたり、広いところを走りまわったりしながら、様々な動きを楽しむ

大人の動き・配慮

- ・子ども達一人ひとりの興味・関心を把握し、子ども同士の関わりを大切にする

- ・安全な環境の下で、自然に触れ、全身や手先を十分に動かして探索活動を楽しめるようにする

- ・一人ひとりが満足して遊べるように安全面に配慮する

<留意点>

- ・散歩の前後には水分補給を行い、トイレに誘ったりオムツの汚れを確認する
- ・興味・関心に応じたコース、場所の設定をして行動範囲を少しずつ拡大していく
- ・子どもから目を離さない
- ・虫さされ対策をする
- ・害虫に十分注意する

<人的環境>

- ・飯能の豊かな自然を満喫できるよう工夫する
- ・子ども達の身の回りや足元に注意し安全に気を配る
- ・危険物を知らせる(車・バイク・自転車・看板等に触らせない)
- ・動物を見る時は近づきすぎないように注意する

<物的環境>

- ・見つけたものを入れる器や袋を持参する
- ・帽子をかぶる



散歩（3歳児）

＜ポイント＞

- ・散歩先の環境を生かしたあそびをする
- ・危険な場所を予め確認し、全体の安全を見守る保育士をおく

（主な持ち物）

- ・ホイッスル・帽子・ベスト
- ・携帯電話・防犯ブザー
- ・救急用品・タオル・緊急連絡カード・小銭・衣類一式（オムツ・パンツ・ズボンなど）・ティッシュ・ビニール袋

子どもの姿

経験したことや興味のあることを、友だちや保育士とやりとりすることを楽しむ

季節の変化を感じながら、身近な自然物を取り入れて遊ぶ

保育所にない遊具でも、のびのびと身体を動かして遊ぶ

簡単な交通ルールを知り、友だちや保育士と一緒に守ろうとする

大人の動き・配慮

・子ども達一人ひとりの興味・関心を把握し、子ども同士の関わりを大切にす

・自然物を使ったあそびを製作などの活動につなげていく

・一人ひとりが満足して遊べるように安全面に配慮する

・生活やあそびの中にきまりがあることを知らせ、くり返し伝える

＜留意点＞

- ・園外のトイレに行く時は保育士が必ず付き添い、鍵はかけない
- ・階段や急な坂道では転倒を防ぐためにも手を離して歩く
- ・子どもから絶対に目を離さない
- ・虫さされ対策をする
- ・害虫に十分注意する

＜人的環境＞

- ・飯能の豊かな自然を満喫できるよう工夫する
- ・子どもたちが歩きやすい並びかたを工夫する
- ・危険物（車・バイク・自転車・看板等）に触らせない
- ・動物を見る時は近づきすぎないように注意する

＜物的環境＞

- ・見つけたものを入れる器や袋を持参する
- ・帽子をかぶる



散歩(4・5歳児)

<ポイント>

- ・自然の中でダイナミックなあそびを楽しむ
- ・色々な道を歩くことで社会のルールやマナーを伝える
- ・季節の移り変わりを五感で感じて楽しむ
- ・雨の日や雪の日の散歩も計画する
- ・お散歩マップ等を利用して地域への関心を広げる

(主な持ち物)

- ・ホイッスル・帽子・ベスト
- ・携帯電話・防犯ブザー
- ・救急用品・タオル・緊急連絡カード・小銭・衣類一式(パンツ・ズボンなど)
- ・ティッシュ・ビニール袋

子どもの姿

友だち同士の会話を楽しみながら目的を持って出掛ける

虫探しや花摘みなど、季節のあそびを楽しむ
虫や花などを持ち帰り、飼育したり名前を調べたりする

保育所にはない遊具を使ったり、仲間同士で全身を使って遊んだりすることを楽しむ

交通ルールや公共のマナーを覚え、進んで守ろうとする

大人の動き・配慮

- ・子どもが楽しめるような計画をたてる
- ・子どもの期待がふくらむような言葉かけをする

- ・個々の発見や気づきを認める
- ・子どもたちの興味が広がる教材を用意する

- ・あそびの提案をしたり一緒に活動することで、あそびが広がるようにする

- ・交通ルールや公共のマナーを教え、決まりを守ることの大切さを知らせる

<留意点>

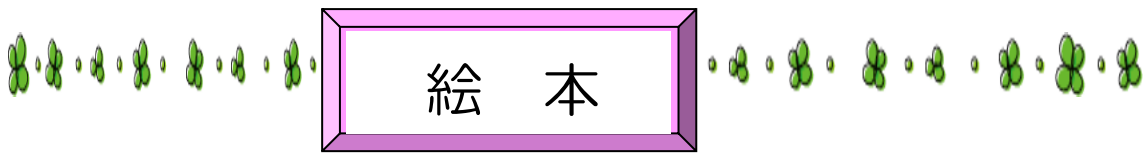
- ・園外のトイレに行く時は保育士が必ず付き添い、鍵はかけない
- ・公園に来ている地域の人とも関わりを持つようにする
- ・事前に活動範囲を示し、安全にあそぶことを約束する
- ・虫さされ対策をする
- ・害虫に十分注意する

<人的環境>

- ・飯能の豊かな自然を満喫できるよう工夫する
- ・目的地では、危険がないか確認し、安全に遊べるように見守る

<物的環境>

- ・見つけたものを入れる器や袋を持参する
- ・暑い日には水筒を持っていく



絵本は生きる力を育みます。

- ① 「読み聞かせ」という行為のスキンシップから自己肯定感・安心感が根付き、自我の芽生えや集団生活の中で社会性を培います。
- ② 「絵本の世界観を疑似体験する」ことで新しい考え方が生まれ夢や希望を膨らめます。
- ③ 「絵本にふれる」ことで豊かな感性と知識を養い、想像力・創造力を育みます。
- ④ 「絵本を読んでもらう」ことは、人の話を聞く力やものを見る眼を育てます。子どもたちの心に響き、思いを育む絵本を見聞きする体験で子どもたちの生きる力をつけていきましょう。

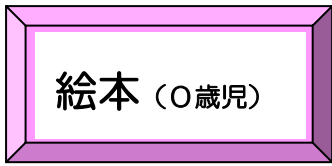
絵本（読み聞かせ）の楽しみ方のポイントを抑えておきましょう。

絵本（読み聞かせ）の楽しみ方は、読み手（保育士）聞き手（子ども）ともに楽しいと思えることが大切です。子どもがお気に入りの絵本は何度でも読んであげます。無理にしつけや学びのもとに使わないようにします。子どもと一緒に絵本をゆったり楽しみましょう。

美しい言葉の響き、生き生きと描かれた絵をじっくり楽しめます。ゆっくり、心を込めて読みます。これらのポイントをふまえ子どもとともに絵本の持つ素敵な世界観をたくさん感じてみましょう。

読み手（保育士）は絵本と子どもをつなぐ役です。毎日の読み聞かせが子どもと保育士のより豊かな時間となりますように。





絵本 (0歳児)

<ポイント>

- きれいな色彩のものや身近なもの
の絵本を選ぶ

子どもの姿

簡単な絵本に興味を持ち、喃語や片言を言う

見ながら読み手の顔を覗き込んだり指さしをしたりする

やぶいたり、口に入れたりする

どんどんページをめくったり、本を閉じたり集中しない

大人の動き・配慮

• 子どもに合わせたスキンシップをしながら読み聞かせる
(精神的な安定につながる)

• やぶいてしまっても、しからず丁寧に対応する
(あーあ、大事 大事ね、など)

• 気長に待ち、子どものペースで読み聞かせる
(育児の大切な姿勢)

<留意点>

- 子どもの要求に応じて何度でも繰り返し読み聞かせる
- シンプルで場面や言葉の繰り返しが多い絵本を選ぶ

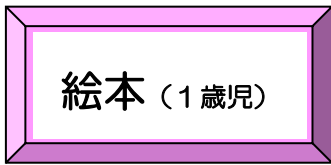
<人的環境>

- 膝の上に抱いて同じ方向から読み聞かせる
(その他、腕に抱く添い寝など)
- ゆったりとした雰囲気の中で読み聞かせる

<物的環境>

- 絵本は子どもの見えるところに間隔をあけて、並べておく
- 表紙が見えるように絵本を並べる





絵本 (1歳児)

子どもの姿

絵を見て自分の言葉とイメージで場面に合った言葉を発する

お気に入りの絵本を持ってきて読んでもらう

本棚から出して、上手にページをめくる

絵本を手に持ち、ひとりで読んでいるかのような姿を見せる

<ポイント>

- ・リズムカルな言葉や繰り返しの多い絵本を選ぶ

大人の動き・配慮

- ・同じ絵本でも要求に応じて何度でも読む
- ・一語一語はっきり読む（認識されやすく、模倣しやすいため）

- ・すぐに応じ、寄り添って読む

- ・表紙が見えるように絵本を並べ、自分で選べるようにする

- ・興味のある本と一緒に見ながら、簡単な言葉の繰り返しや模倣を楽しむ

<留意点>

- ・子どもの要求に応じて何度でも繰り返し読み聞かせる
- ・知っているものが発見できる絵本を選ぶ

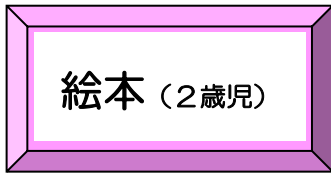
<人的環境>

- ・ゆったりした雰囲気の中で読む
- ・膝の上に抱いて同じ方向から読み聞かせる

<物的環境>

- ・表紙が見えるように絵本を並べる
- ・子どもの手の届くところに並べる
- ・絵本を見るコーナーを設置する





絵本 (2歳児)

<ポイント>

- 理解しやすい内容や生活体験に近いストーリーを選ぶ

子どもの姿

好きな絵本を持ってきて繰り返し読んでもらう

お気に入りの絵本ができ、抱えている

一緒に声を揃え台詞を言ったり友だちに読んであげようとする

大人の動き・配慮

- 同じ絵本でも要求に応じ何度でも読む

- 持ってきたときはすぐに応じ、寄り添うことで、自己肯定感を育てる

- 保育士も一緒に楽しんで見ることで、繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ

<留意点>

- 子どもの要求に応じて何度でも繰り返し読み聞かせる
- ストーリーが予想できる繰り返しのある絵本を選ぶ

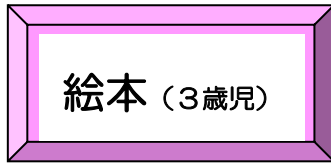
<人的環境>

- ゆったりした雰囲気の中で読む
- 膝の上又は横に座り、一緒に読む

<物的環境>

- 表紙が見えるように絵本を並べる
- 子どもが取り出しやすくする
- 絵本を見るコーナーを設置する





絵本 (3歳児)

子どもの姿

一人で絵本を見て楽しんでいる子もいる

友だちと一緒に絵本の読み聞かせの時間を楽しみにしている

絵本の内容がわかり、イメージをもって楽しんで見たり聞いたりする

読み聞かせの後、簡単なごっこあそびが始まる

大人の動き・配慮

• その子の時間や空間を大切にする

• 一日の生活の中に絵本の読み聞かせの時間を意図的に組み入れていく

• 子どもの経験と結びつけたり、想像したりイメージを豊かにできるように、選定や読み方に気をつける

• あそびが発展できるような道具を用意する

〈留意点〉

- 下読みをしておく
- 表紙から裏表紙まで見せ、文章の通りに読む
- 本を安定させて持ち、絵を隠さないようにする
- 途中で質問をしたり、感想を聞かない(余韻を壊さないように)

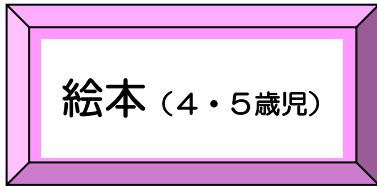
〈人的環境〉

- 読み手に注目させ、落ち着いた状態になってから読み始める(手あそびなどもよい)



〈物的環境〉

- 読み手の後ろにものがない所を選び、後ろが明るすぎる時はカーテンをひくなどする
- 動くものが目に入らない場所、周囲の音が読み聞かせの妨げにならない場所を選ぶ
- 絵本コーナーを設置する



＜ポイント＞

- ・月齢に合わせて話に展開のある物語絵本、自然科学、外国の本などを用意し子どもの視野を広げていく

子どもの姿

一人でじっくり見たり、読んだりしている

友だちと一緒に絵本や童話の読み聞かせの時間を楽しみにしている

童話や詩など聞いたり、自ら表現したりして、言葉の面白さや美しさがわかり想像して楽しむ

話の続きを考えたり手作り絵本を作ったりする

読み聞かせの後、ごっこあそびが始まり、役割分担をし、劇あそびに発展する

大人の動き・配慮

・その子の時間や空間を大切にする

・一日の生活の中に絵本や童話の読み聞かせの時間を意図的に組み入れていく

・一語一句わからないと伝わらないのでは？と思わず、長い台詞であっても面白いと思える本は取り入れる

・日常生活の中でも文字などで伝えるようなあそびを考える

・あそびが発展できる言葉かけをする

＜留意点＞

- ・一人で読めるようになっても子どもが望む限りは応じる(読んでもらうのと自分で読むのは全く違う)
- ・表紙から裏表紙まで見せ、文章の通りに読む
- ・本の持ち方に気をつける



＜人的環境＞

- ・読み手に注目させ、落ち着いた状態になってから読み始める(手あそびなども良い)

＜物的環境＞

- ・動くものが目に入らない場所、周囲の音が読み聞かせの妨げにならない場所を選ぶ
- ・絵本コーナーを設置する
- ・現実の世界と空想の世界を自由に行き来できるような本を選ぶ

年齢別おすすめ絵本

保育現場で、絵本は子どもの数だけ違いがあり、ここで紹介するのは、ほんの一部ですが保育所でよく読まれ、子どもたちに好評の絵本です。

0歳児絵本参考



- いないないばあ
- おててがでたよ
- いいおかお
- でてこい でてこい
- ころころころ
- くっついた
- たたくと ぽん
- ととけっこうよが あけた

1歳児絵本参考

- じゃあじゃあ びりびり
- おつきさま こんばんは
- がたんごたん がたんことん
- かおかお どんなかお
- こぐまちゃんシリーズ
- ぴょーん
- だるまさんシリーズ
- あっぷっぷ
- ねんねん ねこねこ
- どんどこももんちゃん

2歳児絵本参考

- しろくまちゃんのホットケーキ
- おにぎり
- くだもの
- もこもこもこ
- はけたよ はけたよ
- うずらちゃんのかくれんぼ
- そうくんのさんぽ
- いやだいやだ
- はらぺこあおむし
- たまごのあかちゃん
- きんぎょが にげた
- どっちのてにはいっているか？



3歳児絵本参考

- おおきなかぶ ・ かばくん ・ てぶくろ
- 3びきのやぎのガラガラドン
- ねずみくんのチョコキ ・ もりのなか
- わたしのワンピース ・ おしゃべりさん
- ぐるんぱのようちえん ・ 3びきのくま
- だるまのこぶた ・ ぐりとぐら
- お月さまってどんなあじ？
- おふろだいすき ・ 11 ぴきのねこ
- だるまのハリー ・ くまのコールテンくん
- だめよディビット ・ ちびゴリラのちびちび



4歳児絵本参考

- はじめてのおつかい ・ 図鑑
- からすのパンやさん
- せなけいこおばけえほん
- うしはどこでも「もー！」
- だごだご ころころ
- すてきな三にんぐみ
- かいじゅうたちのいるところ
- せんたくかあちゃん
- ぼく、だんごむし ・ まゆとおに
- ねずみのすもう ・ さるとかに
- まあちゃんのながいかみ
- おちやのじかんにきたとら



5歳児絵本参考

- ももちゃんえほん ・ いやいやえん
- エルマーのぼうけん ・ 図鑑
- もりのへなそうる ・ 十二支のはじまり
- おしいれのぼうけん ・ おじさんのかさ
- そらいろのたね ・ かさじぞう
- 王さまと九人のきょうだい
- 100万回生きたねこ
- ブレーメンのおんがくたい
- めっきらもっきらどおんどん
- だいくとおにろく ・ ミッケ
- シナの五にんきょうだい



リトミック

リトミックとは、スイスの音楽教育家ダルクローズが創案した、音楽を使って行う反応教育で、それを基に体育と音楽を融合させ活気的なものへ発展させた「天野式リトミック」を飯能市では取り入れています。

指導目標

- ・ 注意集中力を養う
- ・ リズム能力を高める

指導効果

- ・ 注意集中力が身につく
- ・ 直感力、記憶力、思考力、判断力が身につく
- ・ リズム能力が高められる



その結果

- ・ 怪我が少なくなる
- ・ 協力的になり誰とでも遊べるようになる
- ・ 言葉がはきはきし、無駄なおしゃべりをしなくなり、人の話をよく聞けるようになる
- ・ 自立の習慣がついて1人で何でもできるようになる



指導内容

- ・ 基本的には裸足で行い、正しい姿勢の習慣化を目指し、いつでもVの足で立てるよう心がける。
- ・ 天野式リトミックは音楽反応(M)と体育あそび(P)に分けられ、年間カリキュラムは成長過程に即してプログラム化されているので活用すると良い。
- ・ ほめる、認めることで意欲や自信を育てる。(意欲のある、集中している輝く目を大切にする)
- ・ 少しの時間でも毎日根気よく実施すること、まとめて長時間行うよりも、毎日の積み重ねが大切であり効果的である。

リトミック（音楽あそび）
0・1・2歳児

子どもの姿

簡単な歌や手あそび、音楽に合わせて、声を出したり保育士の真似をしたりする

保育士とリズムカルで簡単な歌や、手あそび、わらべうたなどを真似しながら、ふれあい遊びを楽しむ

保育士と簡単な歌や、わらべうたに親しみ、声を出したり体を動かしたりする季節の歌や親しみのある歌を楽しむ

リズムに合わせて、歌ったり踊ったり、楽器を鳴らしたりして遊ぶ
朝の体操やリズム遊戯など、保育士や年長児等の真似をして体を動かす

保育士や友だちと一緒に歌を歌ったり踊ったり、からだを動かしたりして表現することを楽しむ

<ポイント>

- ・保育士が子どもと一緒に歌ったり踊ったりする楽しさを共有、共感しあう
- ・生活の中で音を意識した体験ができるようにする

大人の動き・配慮

・やさしい声、笑顔で、繰り返し歌い、子どもと一緒にからだを揺らしたりして楽しむ

・生活の中で音楽やリズム感を意識し、いつでも音楽が聴けるように童謡やリズム遊戯のCDなどを用意しておく

・季節の歌や行事の歌、なじみのある歌や手あそびを遊びの中で提供して興味を持てるようにしていく

・手あそび、リズムあそび、楽器、絵本などを通して五感の発達を促し、楽しめるようにする

・リズムカルな曲を用意し、保育士と一緒に歌ったり踊ったりして、表現する楽しさが感じられるようにする

<留意点>

- ・安全に遊べるスペースを確保すると共に、子どもが親しみやすく、覚えやすい曲を選ぶ
- ・日常的に繰り返し歌いかける

<人的環境>

- ・保育士とのやりとりやふれあいを大切に、ゆったりとした雰囲気の中で行う

<物的環境>

- ・手に持ちやすく、安全で音色の美しい玩具、楽器を身近に置く

リトミック (3歳児)

<ポイント>

- ・リズムやテンポ・音の変化を楽しむ
- ・友だちと一緒に音の心地良さや楽しさを感じる
- ・あそびや生活の中で繰り返し行う

子どもの姿

ピアノの合図を静かに座って待つ(体操すわり)
 ピアノの合図で手をつなぎ円になる
 合図で手を離す
 足はV、姿勢よく待つ

ピアノによる動作の約束を知る

- ・方向感(右向き)手足の停止
立つ 足を出し座る
- ・ピアノの音や発令に合わせて体で表現する(ピアノの音やリズムの変化に気づく)
- ・身近な動物や乗り物をまねて表現する

「リズム遊戯」

保育士と一緒に楽しんで歌いながら踊る

大人の動き・配慮

- ・静かに集中できるのを待って始める
- ・うまく円になれないで引っ張り合ったりしている子どももいるので、保育士が入って一緒に行う(ピアノは指導者)
- ・「かっこ良い足だね」「待っているのが上手だね」と褒める。自分も褒められたい、頑張ろうと意欲が湧く(優劣をつけるものではない)

- ・個人差があるので、リズム能力や発達に合わせて無理なく進める
- ・速さや音に変化を付け、集中できるようにする
- ・リトミックの動きに自由な表現活動も入れ楽しむ

- ・子どもと一緒に歌ったり、踊ったりするのを楽しむ
- ・生活やあそびの中で繰り返し行う→音楽が定着していく

<留意点>

- ・保育士と一緒に参加し楽しく遊べるリトミックとする
- ・自由な表現活動を大切にし、子どもの意欲を高めていく

<人的環境>

- ・保育士と一緒にリトミックを行い、リズムカルで正しい動作をし、お手本になるようにする
- ・指導者の褒め方が子どもの意欲や自信となる

<物的環境>

- ・安全で十分な活動ができるスペースを確保する

リトミック (4歳児)

<ポイント>

- ・ピアノや発令に合わせて体を動かす・踊る・歌う楽しさを十分感じられるようにする
- ・よく見て、聞いて、考えることで集中力を養う

子どもの姿

ピアノの合図を静かに座って待つ（体操すわり）
 ピアノの合図で手をつなぎ円になる

- ・合図で手を離す
- ・足はV、姿勢を良く待つ

ピアノによる動作の約束を知る

- ・方向感（右向き・真ん中向き・後ろ向き）手足の停止、立つ、足を出して座る
- ・ピアノの音や指導者の発令を聞き、体で表現する（ピアノの音やリズムの変化に気づく）

「リズム遊戯」

- ・ピアノの曲を聞き分けて歌いながら踊る

大人の動き・配慮

- ・静かに集中できるのを待って始める
- ・「Vの足かっこ良い」「よくお話聞けたね」など褒めること、認めることで子どもの意欲を引き出す（優劣をつけるものではない）

- ・音やリズム、テンポに変化を付け、絶えず集中し、発令を待つ状態をつくる
- ・音楽に合わせて表現することへの喜びや快さを引き出せるように、個々の動きを把握し認める
- ・指導者の発令がなくても、次の音の聞き分けをして身体表現を始められるようにする

- ・一つひとつの動きを大事にし、特に静止の時はしっかり止める
- ・歌いながら遊戯ができるように繰り返す

<留意点>

- ・音に敏感な子、見通しがたつ子は次の動作の予測がつくので、毎回同じパターンでの指導にならないようにする
- ・楽しみながらリトミックができるように、反復練習を行う

<人的環境>

- ・保育士と一緒にリトミックを行い、リズムカルで正しい動作をし、お手本になるようにする
- ・指導者の褒め方が子どもの意欲や自信となる

<物的環境>

- ・安全で十分な活動ができるスペースを確保する

リトミック (5歳児)

<ポイント>

- ・ピアノや発令に合わせて体を動かす・踊る・歌う楽しさを十分感じられるようにする
- ・よく見て、聞いて、考えることで注意集中力を養う

子どもの姿

ピアノの合図を静かに座って待つ（体操すわり）

ピアノの合図で手をつなぎ円になる

- ・合図で手を離す
- ・足はV、姿勢良く待つ

ピアノによる動作の約束を知る

- ・方向感（右向き・左向き・真ん中向き・後ろ向き）左手、右手、手足の停止、立つ、足を出して座る
- ・ピアノの音や指導者の発令を聞き、体で表現する（ピアノの音やリズムの変化に気づく）

「リズム遊戯」

- ・ピアノの曲を聞き分けて歌いながら踊る
- ・隊形を変えて踊る（2人、4人、自由・・・）

<留意点>

- ・毎回同じパターンでの指導にならないように、曲の流れ・動作・遊戯・隊形等の変化をつけて楽しむ
- ・仲間意識を高め、集団でやるダイナミックさを十分味わえるようにする

大人の動き・配慮

- ・静かに集中できるのを待って始める
- ・Vの足、姿勢の確認
- ・音より先に動き出さないことを伝える

- ・音やリズム、テンポに変化を付け、絶えず集中し、発令を待つ状態をつくる
- ・ピアノの音の聞き分けをして、次の体の表現を察知する能力を身につける（個々の動きの把握）
- ・体のバランスがとれ動きが安定しているので、テクニックや音符の表現など少し高度にしてダイナミックさを味わう

- ・一つひとつの動作を大事にし、特に静止の時はしっかり止める
- ・歌いながら遊戯ができるように繰り返す行う
- ・遊戯は季節にとらわれず、好きな曲を年間通して取り入れても良い

<人的環境>

- ・指導者の褒め方や認め方が子どもの意欲や自信となる
- ・リズム感覚やリズム能力を高められるように個々を把握し認める

<物的環境>

- ・音に集中でき、十分な活動ができるスペースを確保する

リトミック
年齢別カリキュラム参考



〈0～2歳児〉

乳児の発達に沿う、リズムカルで簡単なもの

- ・ふれあいあそび
- ・わらべうた
- ・手あそび
- ・季節の歌
- ・行事の歌
- ・リズム遊戯

〈3歳児〉

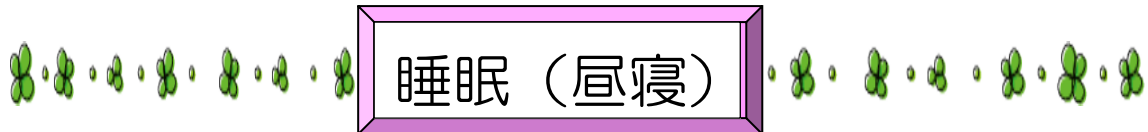
- ・ピアノによる動作の約束
- ・注意集中訓練
- ・和音あそび（カラス、キラキラ）
- ・拍子練習（4拍子）
- ・音符表現 動物や乗り物で ♪♪♫ を表現する
- ・幼児テクニック ジャンプ、スキップ
- ・幼児体操 キラキラ・・・キュー
「リズム遊戯」・ぞうさん・こぶたさん・アメチョコさん・ソフトクリームのうた・たかくなれひくくなれ・ふね

〈4歳児〉

- ・ピアノによる動作の確認
- ・注意集中訓練
- ・和音あそび（カラス・キラキラ・ポンプ）
- ・拍子練習（2拍子 3拍子 4拍子）
- ・音符の表現 手足で ♪♪♫ を表現する
- ・幼児テクニック ジャンプ おすべり スキップ 大きなジャンプ
- ・幼児体操 キラキラ体操 舟こぎ 腕伸ばし
「リズム遊戯」・キラキラ星・えんそく・かまきりじいさん・くまのこ

〈5歳児〉

- ・ピアノによる動作の約束
- ・注意集中訓練
- ・和音あそび（カラス キラキラ ポンプ）
- ・拍子練習（2拍子 3拍子 4拍子）
- ・音符の表現 手足で ♪♪♫ を表現する
- ・幼児テクニック 大きなジャンプ スキップ 片足ケンケン かけっこ
- ・幼児体操 ひらいたつぼんだ 電信柱 えび
「リズム遊戯」海の組曲 秋の組曲



睡眠（昼寝）

睡眠には心身の疲労を回復させる働きのほか、脳や体を成長させる働きがあります。子どもの成長には欠かせない成長ホルモンは眠っている間に活発に分泌されます。特に午後10時から午前2時の時間帯にぐっすりと眠っていることが子どもの成長には大事です。暗くなると脳から分泌されるメラトニンによって体温が下がり、自然と眠りにつくことができます。また、朝の光を浴びると脳と体を覚醒させ日中の活動をしやすくすると共に、心のバランスを整える働きのあるセロトニンが分泌されます。さらに1日24時間の地球の周期に体内時計を合わせるすることができます。そのため、夜は暗くして落ち着ける環境でメラトニンをしっかりと分泌させ、日中は明るい環境で活動的に過ごすことが重要です。

保育所の昼寝は夜の睡眠の補完として休息と安静を取ることと捉え、夜の睡眠に影響を与えないようにします。

<SIDS（乳幼児突然死症候群）>

- ・何の予兆もないままに、主に1歳未満の健康にみえた乳児に、突然死をもたらす疾患である。

昼寝（0歳児）

<ポイント>

- ・成長に必要な睡眠を保障する
- ・十分な睡眠を確保し、情緒の安定、心身の発達や健康につなげていく
- ・SIDS チェック表を活用し呼吸の確認（5分に1回）を必ず行い、体にも触れる
- ・事前説明会にて、敷き布団は固めのものを用意してもらうように伝える
- ・心肺蘇生法を訓練し、対応できるようにしておくこと

子どもの姿

眠くなると安心して眠りにつく

保育士の子守唄を聞きながら心地よく眠る

抱っこやおんぶで心地よく眠る

心地よく目覚める

2回寝から1回寝に移行する

<留意点>

- ・SIDS やその日の健康状態、個々の既往症などに配慮し、体調の変化を見逃さないようにする
- ・布団は顔にかからないようにし、食事エプロンやよだれかけをはずす
- ・5分に1度呼吸確認をする

大人の動き・配慮

- ・一人ひとりの子どもの眠りのサインや癖等を察知し、安心して十分に眠れるように対応する

- ・落ち着いて安心した雰囲気の中で眠りにつかせるようにする
- ・体の一部をやさしく触れながら入眠へと導く

- ・一人ひとりの入眠しやすい姿勢を把握する
- ・抱っこやおんぶの欲求や要求に応える

- ・一人ひとりの目覚めに適切に対応する
- ・起床後の健康状態に十分注意する
- ・はっきりと目覚めた後に検温する

- ・一人ひとりの移行するタイミングを察知し、より良い生活リズムにつなげる

<人的環境>

- ・ゆったりとした雰囲気を大事にする

<物的環境>

- ・室温 夏 25度前後
冬 18～22度
- 湿度 50～60%
- ・静かな環境をつくる
- ・室内は、薄いカーテン程度の明るさを保つ
- ・換気に注意する

昼寝（1歳児）



<ポイント>

- 睡眠の生理的欲求を満たし、生命の維持と生活の安定をはかる
- 休息と活動のリズムを身につける
- SIDS チェック表を活用し、呼吸の確認（10分に1回）を必ず行い、体にも触れる
- 心肺蘇生法を訓練し、対応できるようにしておく

子どもの姿

抱っこやおんぶで眠る
自分の布団がわかり、自ら布団に入る

保育士の子守唄を聞いたり、絵本を読んでもらったりしながら眠る

お気に入りの物を持って眠る
（おもちゃ、人形、タオルなど）

心地よく眠る

心地よく目覚める

大人の動き・配慮

• 安心できる保育士の側で、一定時間質の高い眠りが得られるようにする

• 落ち着いて安心できる雰囲気の中、ゆったりと入眠に導く

• 子どものお気に入りのものを認める

• やさしく体に触れたりしながら、一人ひとりに適した接し方で入眠に導く

• 目覚めた時は一人ひとりに適切に対応する
• 起床後の健康状態に十分注意する
• はっきり目覚めた後に検温する

<留意点>

- SIDS やその日の健康状態、個々の既往症などに配慮し、体調の変化を見逃さないようにする
- 食事の済んだ子から、入眠出来るように布団敷きをすませておく
- 10分に1回呼吸確認をする

<人的環境>

- 安心できる保育士の側で眠れるようにする

<物的環境>

- 室温 夏25度前後
冬18～22度
- 湿度 50～60%
- 静かな環境をつくる
- 室内は、薄いカーテン程度の明るさを保つ
- 換気に注意する

昼寝（2歳児）

<ポイント>

- ・活動と休息の生活リズムの大切さを知る
- ・衣服の汚れ等を確認し清潔な衣服で入眠できるようにする

子どもの姿

短時間でぐっすりと眠る

保育士の子守唄を聞きながら眠る

お気に入りの物を持って眠る
（おもちゃ、人形、タオルなど）

心地よく眠る

心地よく目覚める

大人の動き・配慮

・活動が活発になり、保育所での昼寝が一定しぐっすりと眠れるようになるので、家での睡眠に配慮しながら寝かせすぎに注意する

・落ち着いて安心できる雰囲気の中、ゆったりと入眠へ導く
・その子に合った声やテンポで歌う

・子どものお気に入りの物を認める

・やさしく体に触れたりしながら、一人ひとりに適した接し方をする
・なかなか入眠出来ない子にも布団の中で体を休めるように伝える

・目覚めた時は適切に対応する
・起床後の健康状態を把握する
・はっきり目覚めた後に検温する
・目覚めの悪い子は、抱っこして落ち着くまで見守ったり、時間に余裕を持って対応する

<留意点>

- ・その日の健康状態、個々の既往症などに気を配り、常に体調の変化を見逃さない
- ・食事の済んだ子から入眠できるように布団敷きを済ませておく
- ・15分に一回呼吸確認する（SIDSチェック表は不要）

<人的環境>

- ・安心できる保育士の側で眠れるようにする
- ・昼寝中の子どもたちの気配を常に意識する

<物的環境>

- ・室温 夏25度前後
冬18～22度
- ・湿度 50～60%
- ・静かな環境をつくる
- ・室内は、薄いカーテン1枚程度の明るさを保つ
- ・換気に注意する

昼寝
(3・4・5歳児)



＜ポイント＞

- ・活動や生活リズムの中で決められた時間内に必要な睡眠、休息をとる。
- ・よりよい睡眠をとることで、社会生活に対応できる体内時計がつくられる

＜5歳児の昼寝期間について＞

- ・12月末まで行う
- ・就学に向け、1月～3月は新たな生活リズムをつくる
- ・活動と休息のバランスに配慮して過ごす

子どもの姿

大人の動き・配慮

自ら布団に入って眠る

- ・絵本の読み聞かせや、子守唄を歌うなどゆったりと落ち着いた雰囲気の中で入眠できるようにする

なかなか入眠出来ない子もいる

- ・やさしく体に触れながら、眠りに導いていく

眠れないまま、布団の中にいる子がいる
早く目覚めてしまう子もいる

- ・一定時間は、布団の中で体や頭を休めるように促す
- ・心身の健康を維持する上で睡眠・休息が欠くことのできないものであることを伝える

心地よく目覚める

- ・光、換気、言葉かけを工夫する
- ・起床後の健康状態に注意する

＜留意点＞

- ・その日の健康状態や既往症などに気を配り常に体調の変化を見逃さない
- ・心地よい入眠ができるように午前の活動や昼寝前の過ごし方に配慮する
- ・体調の急変、窒息等の事故防止及び早期発見につとめる

＜人的配慮＞

- ・ゆったりと落ち着いて体を休められる環境をつくる
- ・昼寝当番を配置して、子どもたちの気配を常に意識する

＜物的配慮＞

- ・室温 夏25度前後 冬18～22度
- ・湿度 50～60%
- ・室内の明るさは、薄いカーテン1枚程度を基本に各施設の状況に合わせて調節する
- ・静かな環境をつくる
- ・換気に注意する

SIDS チェック表

室温 夏 25℃前後(外気との差は 5℃以内)

H 年 月 日(No.)

室温 ℃ 湿度 %

湿度 50%~70%

記録者名 _____

園児名 _____												
7時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
8時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
9時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
10時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
11時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
12時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
13時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
14時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
15時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
16時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
17時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
18時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
19時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
特記事項 仰向け寝・うつ伏せ寝・横向き寝												

園児名 _____												
7時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
8時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
9時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
10時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
11時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
12時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
13時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
14時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
15時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
16時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
17時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
18時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
19時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
特記事項 仰向け寝・うつ伏せ寝・横向き寝												

園児名 _____												
7時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
8時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
9時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
10時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
11時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
12時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
13時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
14時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
15時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
16時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
17時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
18時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
19時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
特記事項 仰向け寝・うつ伏せ寝・横向き寝												

園児名 _____												
7時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
8時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
9時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
10時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
11時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
12時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
13時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
14時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
15時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
16時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
17時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
18時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
19時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
特記事項 仰向け寝・うつ伏せ寝・横向き寝												

園児名 _____												
7時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
8時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
9時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
10時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
11時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
12時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
13時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
14時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
15時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
16時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
17時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
18時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
19時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
特記事項 仰向け寝・うつ伏せ寝・横向き寝												


園児名 _____												
7時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
8時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
9時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
10時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
11時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
12時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
13時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
14時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
15時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
16時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
17時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
18時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
19時	00	05	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
特記事項 仰向け寝・うつ伏せ寝・横向き寝												

室温チェック


10時 ℃ 11時 ℃ 12時 ℃

13時 ℃ 14時 ℃

- * 0才~5分毎 1才~10分毎
- * チェックしたらそれぞれの時間の所を○で囲む
- * うつ伏せ寝、横向き寝、仰向け寝に関して特記事項があれば記入する。
- * うつ伏せ寝、横向き寝を向け寝に直した時はその時間の所を△印でつける。



食 事



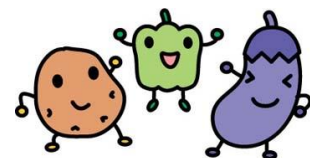
～『おいしく 楽しく 食べる子ども』を目指して～

乳幼児期の食事は生活全体のリズムを整え、豊かな感性を育て、生涯の食行動や食習慣の基礎となります。

保育所給食を通して、みんなで食べる楽しさを知り、食に対する興味、関心を高めると共に食べることの大切さや感謝の気持ちを育みます。

保育所は家庭や地域と連携し、食習慣や継承してきた食文化に親しみを持ち、様々な体験を取り入れながら食生活が豊かになるための取り組みを行います。また、職員同士が協力し、子ども一人ひとりの心身の状況に応じた適切な援助や家庭環境に配慮した対応が必要です。

子どもの心身ともに健やかな成長を願い、「おいしく、楽しく、食べる子ども」を育てるために、計画性を持って取り組むことが大切です。



食事（0歳児）

<ポイント>

- ・月齢差や個人差に応じて食を進める
- ・いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して食べる喜びを知る
- ・保護者と連携を取りながら、無理のないよう離乳をすすめていく
- ・笑顔と優しい言葉かけにより温かい環境をつくる

子どもの姿

大人の動き・配慮

ちゅちゅ

おおむね
0～4 ヲ月
食事形態
(液体)

哺乳期
空腹になると泣いて知らせる
抱かれて飲む
大人が食べているものを見てよだれを垂す

- ・静かでゆったりとした雰囲気の中で特定の大人が言葉かけをしながら授乳を行う
(人間への信頼、愛着形成の基盤になる)
- ・授乳後は、げっぷをさせる
- ・口の動かし方を見て保護者と離乳食開始時期を決める

おおむね
5～6 ヲ月
食事形態
すりつぶした状態 (ペースト状)

離乳食初期
ミルク以外の味に慣れる
スプーンに慣れる
抱かれて食べる

- ・一口量に気をつけながらスプーンですすめる
- ・口が開くまで無理にすすめない
- ・下唇の上にスプーンを乗せ、口に取り込むのを待つ
- ・口をしっかりと閉じて、舌が前後運動できているか確認する

おおむね
7～8 ヲ月
食事形態
舌でつぶせる硬さ (豆腐)

離乳食中期
柔らかく形のあるものを舌でつぶし、モグモグして食べる
器や食べ物に手を伸ばし、つかもうとする

- ・コップや茶碗に両手を添えるように介助し、すり飲み練習を促す
- ・モグモグし下顎の上下運動ができてきているか確認する

おおむね
9～11 ヲ月
食事形態
歯ぐきで潰せる硬さ (バナナ)

離乳食後期
形のあるものを手づかみで食べる
大人の介助を受け、器から飲む
前歯が生え始めてくる

- ・つまめる物はつまんで口に運ぶように促す
- ・コップを両手で持って飲むように促す
- ・舌を自由に動かし歯ぐきでつぶすのを確認する

おおむね
12～18 ヲ月
食事形態
歯ぐきで噛める硬さ (肉団子)

離乳食完了期
こぼしながらも手づかみやスプーンを使い自分の好きな物から食べる
自分でコップを持って飲む
食べ物によっては嫌がることもあり、食べる量にもむらがある

- ・食べにくいものを介助する
- ・スプーンの握り方、運び方、スプーンに乗せる一口量と食べ方に気を付ける
- ・盛りつけ方、食器の置き方に気を付ける
- ・奥の歯茎で噛んで食べているのを確認する

<留意点>

- ・ミルクの温度を確認する
- ・ミルクあとのげっぷは必ず出させる
- ・体重の増減に気を配る

<人的環境>

- ・ゆったりした気持ちで接していく
- ・授乳は1対1で行う
- ・食事中、「マンマ」「アーン」「オイシイネ」などと笑顔で声かけをする

<物的環境>

- ・離乳の準備は果汁・野菜スープから始める
- ・離乳開始は午前1回、一定した時間にす
- ・食品の持味がわかるよう単品で与える
- ・うす味にする

食事（1歳児）

<ポイント>

- ・お腹がすき、食事を喜び、心地良い生活を味わう
- ・いろいろな食べ物を「見る」、「触る」、「噛んで味わう」といった経験を通して、自分で進んで食べようとする
- ・できるようになったことを保育士にほめられ、自身や食事への意欲が高まる
- ・ゆったりとした雰囲気の中で食べる楽しさを十分に経験する

子どもの姿

手づかみで食べようとする

食べ物の興味が出てくる

噛まずに飲み込んでしまう子がいる

スプーンを使って自分で食べようとする

落ち着いて座っていられずあそび食べをする

安定した人間関係の中で、安心して食事をする

保育士の援助により手伝いをしたり食前、食後の挨拶が促されながらできる

大人の動き・配慮

・手づかみ食べを十分にさせ、衛生面にも配慮する

・食材の名前を覚えたり、盛り付けに工夫をし、食べる意欲につなげていく

・口を動かして見せながら、上手に噛んで食べることを繰り返し伝えていく
・子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の大きさや固さなど調理形態に配慮する

・食べる意欲を失わないように、スプーンを持たせたり、口まで運んだり、一人ひとりの発達に合わせて介助していく
・手助けする際はそっと手を添え、自分で出来たという満足感を味わわせていく

・座って食べられるように、食事への興味を誘う楽しい言葉かけをする
・座って食べられたことを褒める
・満腹や食事に飽きてきたサインを見逃さず、食事を切り上げるタイミングを見計らう

・一緒に食べ「おいしいね」等、食べる楽しさを共有する

・一人ひとりに関わり、食事の習慣、衛生を知らせていく

食べるのだいすき

<留意点>

- ・誤飲や窒息に注意する
- ・楽しく食事ができるようにする

<人的環境>

- ・ゆったりした気持ちで接していく
- ・食べ物の好き嫌いに対しては、個別に量を減らしたり、食べやすく工夫するなどし、無理強いしないようにする

<物的環境>

- ・大きさ、硬さ、形に気を配り、十分咀嚼できるようにする
- ・手づかみで食べながらも、スプーンに興味を示し始めたら、毎回スプーンを用意しておく

食事（2歳児）

＜ポイント＞

- いろいろな種類の食べ物や料理を味わう
- 食生活に必要な基本的な習慣に興味を持つ
- 友だちと一緒に楽しい雰囲気の中で食べる

子どもの姿

大人の動き・配慮

食べ物に関心を持ち、いろいろな食べ物を進んで食べる

• 個人差に応じた食事の量、大きさ、固さに配慮する

食欲にムラができ、好みがはっきりし始める

• 子どもの気持ちに寄り添いながら一人ひとりに合った接し方で、少しずつでも味に慣れるように介助する

自分で進んでスプーンを使って食べようとする

• スプーンの持ち方の手本を見せたり、手を添えたりして下手持ちで持つように促す

食前、食後の挨拶が促されながらできる

• 一緒に「いただきます」をすることで挨拶してから食べることを習慣づけていく

保育士の言葉かけにより、手洗い、うがいなど食生活に必要な活動を自分でする

• 清潔の手段については、一人ひとりの状態に応じて関わる

徐々に箸で食べることに慣れる

• スプーンと箸を用意する
• 個々の発達に応じてスプーンから箸が使えるように移行していく

あの味・この味おいしいね

＜留意点＞

- 誤飲や窒息に注意する
- 調理室の様子を見たり、匂いを嗅いだりすることで、「食べたい」という気持ちを持てるようにしていく

＜人的環境＞

- みんなと一緒に楽しく食べられるような雰囲気づくりをする
- 食べ物の好き嫌いに対しては、個別に量を減らしたり、食べやすく工夫するなどし、無理強いしないようにする
- 一口でも食べられたときには褒め、次の意欲へとつなげる

＜物的環境＞

- 食欲が増してくるので、おかわりができるように用意し、食べる意欲に繋げていく
- 個々に対応できるようにスプーンと箸を用意する

食事（3歳児）

<ポイント>

- みんなで一緒に食べる楽しさを知る
- 自分から進んでいろいろな食材を味わう
- 食事のマナーや食べるための方法を少しずつ身につける

子どもの姿

保育所での食事に慣れ、自分で食べようとする

グループの友だちとおしゃべりをし、楽しく食べる

食事の前には排泄や手洗い、挨拶を自分から進んでする

箸で食べることに慣れる

食事に集中できずふざけてしまう子どもいる

大人の動き・配慮

• 様々な食べ物を自分から進んで食べてみようとする気持ちを大切にしていく

• 保育士や友だちと一緒に食べる楽しい雰囲気づくりをする

• 食事の前には排泄や手洗いをすることを声掛けする
• 着席し挨拶をして食べるように促す

• 箸の持ち方の手本を見せたり、個々に気を配る

• 子どもと一緒に食事をするによりマナーを伝えていく

みんなで一緒に食べようね

<留意点>

- 箸の使い方に注意する
- マナーや箸の持ち方にとらわれすぎないようにする

<人的環境>

- 一緒に食事をしながら、マナーを知らせていく
- 箸の持ち方は、子どもの後ろに回り、同じ向きに手を見せるようにする

<物的環境>

- 箸はつまみやすい食べ物から始める
- 子ども同士のかかわりを楽しみながら、食事ができるようにする

食事(4・5歳児)

<ポイント>

- 保育士や友だちと一緒に楽しく食事をする
- 基本的な生活習慣やマナーを身につける
- 食べるまでには、たくさんの人たちが関わっていることを知り感謝の気持ちを持つ
- 食べ物と体の関係に関心を持ち、健康的な生活をする

子どもの姿

食事を友だちと一緒に用意する(配膳の用意、クッキング体験など)

食習慣、マナーを身につける
よく噛んで食べる
正しい箸の持ち方をする
自分で食べられる量がわかる
一定時間で食事が終わる

食べ物の栄養面について知ろうとする

大人の動き・配慮

• 子どもが動きやすいように事前の準備を整え、子どもの行動を見守り援助する

• 保育士や友だちと一緒に食べることで、食習慣やマナーが身につくよう援助していく
• マナーを身につけることで、気持ちよく食事ができるという事を体得していく

• 食べ物と体の関係に興味を持ち、バランスよく食べることの大切さを伝えていく

マナーを守って食べようね
感謝して食べようね

<留意点>

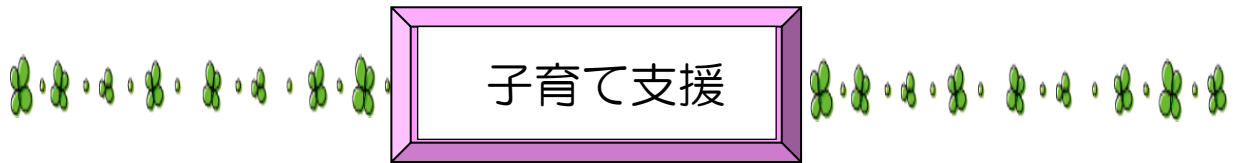
- 箸の使い方に注意する
- 野菜栽培やクッキング、調理の下ごしらえなど、積極的に取り入れていく
- 包丁や調理器具を使う際には、正しい持ち方や使い方を伝える

<人的環境>

- 一緒に食事をしながら、マナーを知らせていく
- 食事時間の目安を知らせ、時間を意識して食べられるようにする
- 包丁を使うときは、安全面を配慮し、保育士が側につく

<物的環境>

- 自分の食事量がわかる時期なので、自分で盛り付けができるようにする
- 落ち着いた雰囲気でする食事ができるようにする



子育て支援

子育て支援は、子育て家庭を社会のすべての人が援助、協力することによって親が安心して子育てすることを支え、同時に子どもの健やかな成長を促すものです。近年、核家族化や地域社会のつながりの希薄化により、親や子育て家庭が孤立化し、子育てに不安や悩みを抱えたり、養育力の低下や、児童虐待等子育てが困難な状況になっている家庭が増加しています。そのため、子育ての負担を軽減させ、楽しく子育てができるような支援が必要です。

また、子どもにふさわしい生活時間や生活リズムが作れないなど、子どもの育つ環境が大きく変化し、食事や生活習慣にも影響が現れています。しっかりとした自我や生きる力が持てるように、乳幼児期に大人から愛され、基本的な信頼関係が形成される環境づくりが大切です。

保育士は専門性を生かし、人権意識をもちながら子育て支援に取り組むとともに、知識や技術の取得、維持、向上に努めていかなければなりません。

子育て支援

<ポイント>

- ・虐待の早期発見
- ・子育ての楽しさを感じられる援助
- ・養育力を高める



受容	相手の気持ちに寄り添う 親が感じている「子育ての大変さ・負担感」を理解する ありのままを無条件に受け入れる
共感	子育て不安・困難さを共感する 会話や気配りの中で一人ではない、話を聞いてもらえる安心感を与える
相談	相手の話を傾聴する <ul style="list-style-type: none"> ・全面的に聴く ・否定的にも肯定的にも聴かない ・相談の内容の論点を整理する ・相手を尊重して聴く ・記録をとる
助言	相談の内容の論点を整理し一定の方向性を示す 相談者が主体的に自立、自己決定をするための援助を行う
保育技術	〔保育士体験・保育所体験 プレママ体験等〕 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に合わせた保育指導を行う ・子どもの発達に合わせたあそびやかかわり方を伝える 《抱く あやす 語り方 表情 かかわり方 あそび方 寝かせ方 オムツ交換 トイレトレーニング 食事の仕方 (食べさせ方) 絵本の読み聞かせ方》
子どもの発達	一人ひとりの発達の違いを理解する <ul style="list-style-type: none"> ・年齢の特徴を理解する ・障がい、アレルギーの特徴を理解する
専門機関との連携協力	アセスメントをして判断・決定を行う <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な連絡・協同などの必要性 ⇒ 連携作り ・同行の必要性（保護者の希望がある場合）
情報提供	子育て情報を提供する <ul style="list-style-type: none"> ・保育所たより クラスたより 連絡帳 おしらせ 掲示 懇談会 個人面談

<留意点>

- ・守秘義務を徹底する
- ・保護者には様々な考え方や個人差があり、親としての力をつけていくにはその人に合った支援をする
- ・相談しやすい雰囲気をつくる
- ・その人なりのペースを尊重する
- ・保育士には保護者を受けとめられる心の余裕をもつ
- ・ほう・れん・そうの重要性を認識する（報告/連絡/相談）
- ・保育士は問題の渦中に入らない。
- ・チームワークをとる（全職員が共通認識を持つ）

<関係機関と団体との連携>

- ・保健センター
- ・母子愛育会
- ・更生保護女性会
- ・民生児童委員
- ・つぼみ園
- ・支援拠点
- ・子育て総合センター
- ・光の家
- ・家庭児童相談室
- ・教育センター
- ・幼稚園
- ・小学校
- ・保育課

子育て支援

<マイ保育所登録事業>

保育体験（給食試食）・園庭開放・子育て相談・
プレママ体験・身長、体重測定・絵本の貸し出し・
保育所見学・保育所行事の参加

在宅支援

在園支援

支援のポイント

- ・マイ保育所登録→地域の在宅親子を把握する
- ・子育て家庭の養育力を向上する
- ・地域の子育て力の向上に繋がる支援を行う
- ・子どもや子育て家庭の問題を早期に見出し予防、継続支援を行う
- ・虐待の発生予防や対応に積極的に取り組む

支援のポイント

- ・保育に密着した親子の支援を行う
- ・信頼関係を築く
- ・子どもの姿から家庭の状況の異変に気づく
- ・親の子育て力をつける
- ・親子のしっかりした絆をつくる
- ・子育てに見通しが持てるようにする
- ・親の不安を解消する
- ・保護者一人一人の自己決定を尊重する
- ・関係機関との協力し連携を行う

人的環境

- ・組織的な子育て支援体制をつくる
- ・専任保育士を配置する（マイ保育所担当）
- ・地域の多様な年齢層との世代間交流を図り、地域住民を結びつける（ほんわかさんぽ事業）
- ・人と人とのかかわりを通して地域社会の活性化につなげる

人的環境

- ・送迎時の態度
全職員笑顔で迎える
親子の様子を全職員が観察する
毎日気軽に声をかける
色々な観点から見る
- ・話を聞く（傾聴）
- ・組織的な子育て支援体制をつくる
- ・所長、主任保育士、担任保育士、その他の職員の役割分担をきめる

保育所機能

- ・保育所機能を開放する→人材、施設開放、設備開放、体験保育
- ・子育ての相談や援助を行う
- ・子育て支援に関する情報を提供する
- ・子育て家庭への交流の場を提供し、交流を促進する
- ・地域の人材を積極的に活用する

保育所機能

- ・継続的に子どもの発達援助を行う
- ・日々、直接顔を合わせることで保護者の様子がわかる
- ・子どもを守る社会的使命がある
- ・様々な関係機関との連携、協力ができる



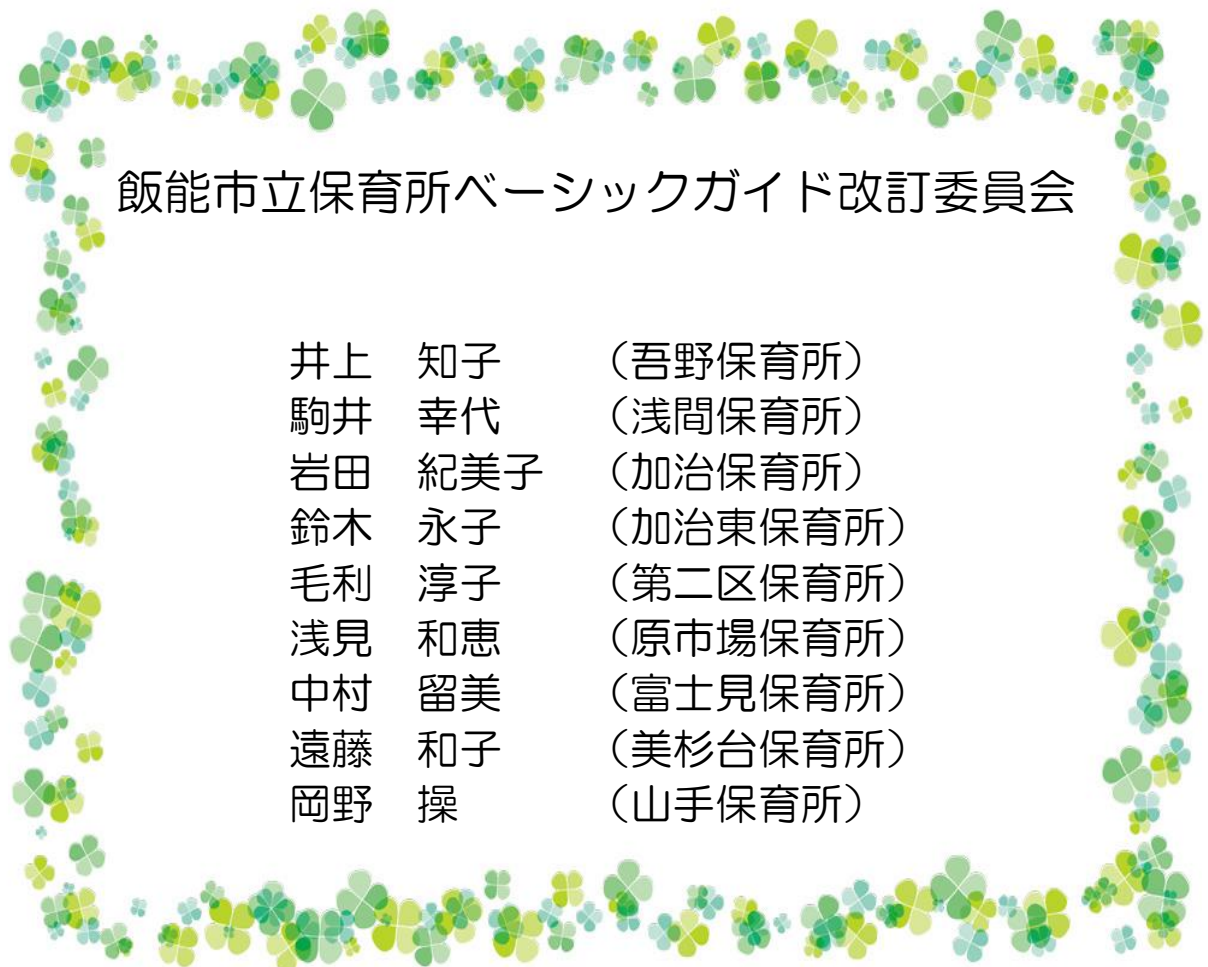
物的環境

- ・親子が安心して集える場所である
- ・親子が安心して話ができる場所である（相談室）
- ・親子が安心して遊べる場所である（安全・安定・清潔）



飯能市立保育所職員の皆様

保育所は子どもの人権に配慮し、一人ひとりの子どもの最善を見据え、より良い保育を提供していきます。
ぜひ、ベーシックガイドをご活用ください。



飯能市立保育所ベーシックガイド改訂委員会

井上	知子	(吾野保育所)
駒井	幸代	(浅間保育所)
岩田	紀美子	(加治保育所)
鈴木	永子	(加治東保育所)
毛利	淳子	(第二区保育所)
浅見	和恵	(原市場保育所)
中村	留美	(富士見保育所)
遠藤	和子	(美杉台保育所)
岡野	操	(山手保育所)

飯能市立保育所ベーシックガイド

平成 25 年 2 月 第 1 版

平成 29 年 7 月 第 2 版

令和 2 年 2 月 第 2 版第 2 刷

発行 飯能市健康福祉部保育課
埼玉県飯能市双柳 1-1
TEL 042-973-2119

